

ねんど だい かいほつかいどうじしゅやかんちゅうがく  
2011年度 第2回北海道自主夜間中学

せいかつたいけんはっぴょうかい  
「生活体験発表会」プログラム

さっぽろだんじょきょうどうさんかく だいけんしゅうしつ  
札幌男女共同参画センターエルプラザ4F大研修室

がつここのか にち  
10月9日(日) 13:15~16:45

しゅさい ぜんどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかいじっこういいんかい  
主催：全道自主夜間中学交流会実行委員会

こうえん ほつかいどうきょういくいいんかい さっぽろしきょういくいいんかい  
後援：北海道教育委員会 札幌市教育委員会

かいかい あいさつ  
1. 開会の挨拶

じしゅやかんちゅうがくはこだてえんゆうじゅくだいひょう じっこういいんちょう いまにし たかひと  
自主夜間中学函館遠友塾代表 実行委員長 今西 隆人

どうないじしゅやかんちゅうがくしょうかい じょうえい  
2. 道内自主夜間中学紹介 (DVD上映)

じしゅやかんちゅうがくはこだてえんゆうじゅく くしろじしゅやかんちゅうがく  
(1) 自主夜間中学函館遠友塾 (2) 釧路自主夜間中学「くるかい」

さっぽろえんゆうじゅくじしゅやかんちゅうがく  
(3) 札幌遠友塾 自主夜間中学

せいかつたいけんはっぴょう  
3. 生活体験発表

やかんちゅうがく まな だいがくさんねんせい まご たよ  
(1) 夜間中学に学んで 大学三年生の孫への便り

やかんちゅうがく えんゆうじゅく まな はこだてえんゆうじゅく くらだ しょうじ  
夜間中学(遠友塾)に学ぶ 函館遠友塾 黒田 正二

えんゆうじゅく まな はこだてえんゆうじゅく すどう きみこ  
(2) 遠友塾での学び 函館遠友塾 須藤 君子

きのう きょう あした くしろ かわむら  
(3) 昨日 今日 そして明日 釧路「くるかい」 川村 チエ

しごと ねん さっぽろえんゆうじゅく たかはし  
(4) 仕事をして50年 札幌遠友塾 高橋 トコ

- (5) 「くるかい」と私 <sup>わたし</sup> <sup>くしろ</sup> 釧路「くるかい」 <sup>おがわ</sup> 小川 サヨ子
- (6) 私 <sup>わたし</sup> のあしあと <sup>さっぽろえんゆうじゅく</sup> 札幌遠友塾 <sup>いわふね</sup> 岩船 とよ



<sup>ひだり</sup> (左より、高橋さん、<sup>たかはし</sup> 小川さん、<sup>おがわ</sup> 川村さん、<sup>かわむら</sup> 岩船さん、<sup>いわふね</sup> さん)

4. <sup>こうりゅうかい</sup> 交流会 <sup>かんそう</sup> 感想・<sup>しつもん</sup> 質問など

5. <sup>へいかい</sup> 閉会の挨拶 <sup>あいさつ</sup>

<sup>くしろじしゅ</sup> 釧路自主夜間中学 <sup>やかんちゅうがく</sup> 「くるかい」 <sup>じむきょくちょう</sup> 事務局 長 <sup>そえだ</sup> 添田 <sup>よしふみ</sup> 祥史

<sup>しりょう</sup> 【資料】

■ メッセージ

■ <sup>かいじょう</sup> 会場アンケート <sup>けっか</sup> 結果

じっこういいんちょう  
実行委員長あいさつ

ほこだてえんゆうじゅく だいひょう いまにし たかひと  
函館遠友塾 代表 今西 隆人



ほんじつだい かい ほっかいどうじしゅ やかんちゅうがく せいかつたいけんはっぴょうかい かいさい  
本日第2回「北海道自主夜間中学 生活体験発表会」の開催に

あたりまして実行委員会を代表して一言お話しさせていただきた  
いとします。

はじ ざんねん はな さくねん がつ ば せいかつたいけん  
まず始めに残念なお話しですが、昨年の7月にこの場で生活体験  
はっぴょう くしろ いしかわおさむ  
を発表された釧路「くるかい」の石川修さんがなくなられたとい  
うことを先月うかがいました。この場をお借りしてご冥福をお祈り  
せんげつ ば かり めいふく いの  
したいと思います。昨年石川さんがお話しの中で最後に言われたこ  
おも さくねんいしかわ はな なか さいご い  
とは皆さんもご記憶にあると思いますが、「戦争だけはやめよう」と  
みな こおく おも せんそう  
言うことでした。全道の夜間中学に通われている生徒の皆さんは  
ほんとう つよ せんそう ことば きょうかん おも  
本当に強くこの「戦争だけはやめよう」という言葉に共感する思い  
わたし しよぞく ほこだてえんゆうじゅく せいと  
があるのではないのでしょうか。私の所属する函館遠友塾では、生徒

みな へいきんねんれい さい せんそう ひさん い  
の皆さんの平均年齢は 73歳です。戦争の悲惨さをイヤと言うほど  
たいけん かがた た やかんちゅうがく まな かがた おな おも おも  
体験してきた方々です。他の夜間中学に学ぶ方々も同じ思いだと思  
います。

へいわ とうと つぎ せだい はっしん やくわり やかんちゅうがく  
つまり、平和の尊さを次の世代に発信していく役割が夜間中学そ  
して、この体験発表会にあるのではないのでしょうか。

つぎ はな ふ わたしたち ことしせんねん  
次にこの話しに触れないわけにはいきません。私達は今年千年に  
いちど い だいしんさい けいけん やく まんにん  
一度あるかどうかと言われる大震災を経験しました。約2万人の

ひとびと とうと いのち うば みな まんにん すうじ じっかん  
人々の尊い命が奪われました。皆さん2万人という数字を実感で  
きるのでしょうか。次のようなことを想像して下さい。170人が乗った

き ひとつき いったい わりあい ついらく ねん  
ジャンボジェット機が一月に一回の割合で墜落し、それが10年にも  
わた つづ い たいへん すうじ げんしりよくはつでんしょ  
渡って続くと言うことです。大変な数字です。さらに原子力発電所の

じ こ みらい ひとたち おお ふ いさん のこ  
事故では未来の人達にとってもなく大きな負の遺産を残したことは  
まちが いま い わたしたち いま い かた いま  
間違いありません。今ここに生きる私達は、今までの生き方、今ま

せいかつ あ く ほんとう にんげん  
での生活の有りよう、そしてどのような暮らしが、本当に人間らし  
しあわ い かた こんぼん と なお とき  
い幸せな生き方なのかを根本から問い直さなければいけない時で

すうじゅうねんまえ れいぞうこ せんたつき  
はないのでしょうか。ほんの数十年前はクーラーも冷蔵庫も洗濯機も  
じどうはんばいき  
コンビニも自動販売機もケータイもテレビゲームもありませんでし

じだい ふべん もの ゆた  
た。そういった時代、いろいろ不便なことがあったり、物は豊かで  
はなかったけれど、でも心が豊かで人と人との絆が強くあった時代。

じだい つよ い やかんちゅうがく せいと わたしたち ぎやく  
そんな時代を強く生きてきた夜間中学の生徒さんから、私達が逆

まな  
に学んでいかなければならないものと強くおもっています。つまり、

せいかつたいけんはっぴょうかい      め      やくわり      せいと      みな      わたしたち  
この生活体験発表会の二つ目の役割は、生徒の皆さんから私達が

まな      なお      ば      おも      とも      まな      あ      ば  
「学び直す」場であると思うのです。それが共に学び合う場である

やかんちゅうがっこう      おお      やくわり      おも  
夜間中学校の大きな役割であると思います。

みな      きょう      こうりゅうかい      せいか      かくちく      も      かえ      ゆた      まな  
皆さん、今日の交流会の成果を各地区に持ち帰り、豊かな学びの

ば      やかんちゅうがく      みの      ば  
場である夜間中学をさらに実りある場にしていきましょう。これか

さむ      きせつ      き      みな      げんき      す  
ら寒い季節がやって来ます。皆さんお元気でお過ごしいただきたい

おも  
と思います。

きょういちにち      ねが  
今日一日よろしくお願ひします。

せいかつたいけんはつびょう  
■生活体験発表■

やかんちゅうがく まな  
夜間中学に学んで

だいがくさんねんせい まご たよ  
大学三年生の孫への便り

はこだてえんゆうじゅく  
函館遠友塾

くろだ しょうじ  
黒田 正二

たかひろくん たよ げんき いま やかん  
貴博君、しばらく便りがないけれども元気かね。じじいは今、夜間

ちゅうがく えんゆうじゅく かよ べんきょう  
中学（遠友塾）に通い勉強しているよ。

せいと にんほど じょせい おお だんせい にん きょうしつない  
生徒は50人程だが女性が多く、男性は5人だけで、教室はとて

はな  
も華やかだね。

わか ころ べんきょう ろうじん あつ あか  
若い頃に、勉強できなかった老人たちの集まりだが、みんな明る

ひと わたし まわ ひと きょうりよく あ べんきょう  
く、いい人ばかり、私は、周りの人たちと協力し合いながら、勉強

たの  
できるので、いつも楽しいよ。

また じょしゅ せんせい が た て と おし たす  
又、助手の先生方は、手に取るように教えてくれるので、助かる

ね。

きみ ま よねんせい わか とき べんきょう じんせい おお  
君は間もなく四年生だ。若い時の勉強は、人生にとって、大きな

ざいさん  
財産になるよ。

しがつ にねんせい しんきゅう み こ たが  
じじいも、四月には二年生へ進級の見込みだ。お互いに、しっか

べんきょう  
り勉強していこう。

か ぜ ひ  
風邪を引くなよ。

りょうしん  
両親によろしく。

じじいより

たいしょう ねん う わたし かぞ とし さい ろうじん やかんちゅうがく  
大正10年生まれの私は数え年91歳になる老人ですが、夜間中学

かよ さんねんせい せいと みな たの べんきょう  
に通い三年生として生徒の皆さんと楽しく勉強しています。

しょうわ ねん がつ ほこだてたいか しない さんぶん に いえな や お  
昭和9年3月の函館大火は市内の三分の二の家並みが焼け落ちる

だいかさい とうじしょうがくせい わたし しんがく きぼう  
という大火災で、当時小学生だった私は進学希望もかなわず

さいげつ す さ  
歲月だけが過ぎ去っていきました。

しょうわ ねん がつようか だいとうあせんそう ぼつ わたし よく ねん  
また、昭和16年12月8日には大東亜戦争がぼつ発し、私は翌17年

がつ げんえきへい ちゅうごく まんしゅう ねんあま ごみなみちようせん  
1月に現役兵として中国・満州に3年余り、その後南朝鮮へと

いじゅう しょうわ ねん しゅうせん よねんぶ きこく うえふくいん  
移住し、昭和20年の終戦によって4年振りに帰国の上復員すること

になりました。

にほん はいせん げんじつ ふっこう あゆ おそ たださいげつ  
しかし、日本は敗戦という現実のなかで、復興の歩みは遅く唯歲月

す さ  
だけが過ぎ去っていきました。

わたし ふくいんごま さつぼろだいいちちゅうがっこう つうしんきょういくかてい にゅうがく  
私は復員後間もなく、札幌第一中学校の通信教育課程に入学

べんきょう はじ とうじわたし でんきつうしんこうじきよく きんむ  
し勉強を始めました。しかし、当時私は電気通信工事局に勤務し、

でんきつうしんじぎょうかくだい ちほう しゅつちよう おお つうしんきょういくこうざ  
電気通信事業拡大のため地方への出張が多く、通信教育講座での

じゅぎょう きゅうがく たいがく なが おも で  
授業がままならず、休学から退学した苦い思い出があります。

へいせい ねん がつ にちづ どうしん きじ なか はこだてえんゆうじゅく  
そんななか、平成21年4月16日付け道新の記事の中に函館遠友塾

かいこう きじ わたし さつそく いましせんせい れんらく にゅうがく  
開校の記事がありました。私は早速、今西先生に連絡し入学する

ことになりました。

いらいかたみちおよ きろめーとる どうてい つうがく げんざい いた  
以来片道凡そ20 軒 の道程をバスにより通学し現在に到って  
います。

わたし たいちょう き くば まえ すす かんが きょう  
私は体調に気を配り、前に進むことだけを考えている今日この  
ごろ  
頃です。

## えんゆうじゅく まな 遠友塾での学び

はこだてえんゆうじゅく ねん  
函館遠友塾 3年

すどう きみこ  
須藤 君子

わたし せんご しょうわ ねん ななえちよう のうか う ちち わたし  
私は、戦後の昭和23年、七飯町の農家に生まれました。父は、私  
が5歳の時に病死しました。

しょうがっこう ねんせい とき ちち な あと おんなでひと のうか つづ  
小学校4年生の時のことです。父亡き後、女手一つで農家を続け、  
わたし さいとしうえ あに そだ はは のう けつ たお はんしんふずい  
私と3歳年上の兄を育ててくれた母が脳いっ血で倒れ、半身不随と  
なってしまいました。それ以来、私は生活のため親に代わって  
のうさぎょう  
農作業をすることとなりました。

いま わす こうけい ゆうがたはたけ いえ かえ さかみち  
今でも忘れられない光景があります。夕方畑から家に帰る坂道で、  
どうきゅうせい い あ かのじよ わら わたし  
もと同級生と行き会いました。彼女たちは笑っていました。私は、  
つうがく かん め ふ  
通学できないことをばかにされたと感じ、目を伏せました。「どうし  
て、私だけ学校に行けないの。どうして、こんな苦勞をしているの。」

きたくご びょうしょう はは な さけ わたし たう  
と帰宅後、病床の母に泣き叫んでしまいました。私は、田植えや

たね くさか しゅうかく な のうぎょう はげ しゅうい ひと  
種まき、草刈り、収穫など慣れない農作業に励みました。周囲の人

たち きょうりよく なん せいかつ  
達の協力もあり、何とか生活していくことはできました。

がっこう がっこう せんせい むか き はは さと い  
学校には、学校の先生が迎えに来たり、母に諭され、たまに行く  
ことはありましたが、勉強について行けず、足はだんだん学校から  
とう  
遠のきました。

がっこう かよ ともだち め がっこう いっさいかんが  
学校に通う友達から目をそらし、いつしか学校のことは一切考  
え  
ないようになりました。結局、私の学校生活は小学校4年生まで  
となってしまいました。

さい はたけ はたら つづ はは な さい とき けっこん  
18歳まで畑で働き続けました。母が亡くなり、19歳の時に結婚し  
ました。結婚1年後、主人は板金業で独立しました。けれど、私は  
かんじ よ が じゅうぶん せいきゅうしよづく じ む て つづ  
漢字の読み書きが十分にできず、請求書作りなどの事務手続きは  
できませんでした。主人は、それでもいいよと優しく言ってくれま  
した。その分、私は、現場作業の手伝いに精を出しましたが、書く  
しごと いっさいきよひ がっこう い  
仕事は一切拒否していました。このとき学校に行かなかったこと、  
べんきょう ほんとう こうかい  
勉強してこなかったことを本当に後悔しました。

さつぼろ やかんちゅうがく しんぶん み し とお  
札幌に夜間中学があることは新聞を見て知っていましたが、遠い  
からとあきらめていました。函館にもこんな学校があればいいなど  
おも ねんまえ あき はこだて やかんちゅうがく しんぶん  
ずっと思っていた3年前の秋、函館に夜間中学ができることを新聞  
し でんわ もう こ  
で知り、すぐに電話で申し込みました。とてもうれしかったです。

にゅうがくしき きんちょう じゅぎょう い  
入学式は、とても緊張しました。授業について行けるだろうか。

どんな仲間が集まるのだろうか。先生は怖くないだろうか。

入学式の一週間後に勉強が始まりました。漢字は分らない。字はへた。特に英語は、アルファベット、大文字、小文字、筆記体。まったくだめでした。回りを見るとみんなすらすら書いているように見えませんでした。

遠友塾に入りたての頃は、何回も止めようかなと思いました。でも、遠友塾の友達に「全部覚えなくても、一つでも覚えればいいのよ。」と言われ、気持ちが楽になりました。それから、授業が楽しくなり、休みたいと思うことが無くなりました。

2年半の勉強で最初分らなかったことが、だんだんと分るようになってきました。先生方の熱心な講義のおかげだと思えます。今は全ての教科が楽しいのです。

私は来年の春、卒業となりますが、もう一年間遠友塾で勉強を頑張ってみようと思っています。遠友塾の先生またよろしくお願ひします。

きのう きょう あした  
昨日 今日 そして明日

くしろ  
釧路「くるかい」

かわむら  
川村 チェ

みなさま くしろ ちゅうがっこう かわむら  
皆様、こんにちは。釧路「くるかい」中学校の川村です。

くしろ ちゅうがっこう へいせい ねん がつかいこう れきし あさ がっこう  
釧路「くるかい」中学校は、平成21年5月開校した歴史の浅い学校

わたし だいいきせい  
であり、私はその第一期生です。

きょうかもく げんそく こくご すうがく えいご きょうか わたし えいご  
教科目は原則として、国語・数学・英語の3教科であり、私は英語

せんたく えいご ととききち じんゆうじん き  
を選択しております。なぜ英語なの？と時々知人友人から聞かれま

かくべつ りゆう し い えいご わたし  
すが格別な理由はありません。強いて言えば、英語は私にとって

みち せかい た きょうかもく かんが  
未知の世界だったからです。他の教科目にくらべていくら考えて

ぶんや  
わからない分野でした。

わたし せいかつごろく なか あい た みち ちようせん  
私の生活語録の中に「愛すること」「耐えること」「未知へ挑戦す

さんてん あ みなさま しょうち せいろ かこくさい  
ること」の三点が有ります。これは皆様よくご承知の聖路加国際

びょういんひのはらりじちよう ことば すうねんまえ くしろこうえんかい さい お  
病院日野原理事長の言葉です。10数年前、釧路講演会の際にも古い

かん わかわか くちよう さいさんはな また りじちよう  
感じさせない若々しい口調で再三話されておりました。又、理事長は

へいせい ねん がつよつか さい たんじようび むか げんえき いし  
平成23年10月4日に、100歳の誕生日を迎えられた現役の医師で、

どうねん がつなのか げんき しつえん  
同年10月7日にもTVに元気に出演されておりました。

わたし つねづね ことば にちじようせいかつ ししん くしろ  
私は、常々この言葉を日常生活の指針としております。釧路「く

ちゅうがく にゅうがく えいご がくしゅう いろいろ いみ  
るかい」中学へ入学する。そして英語を学習する。色々な意味で

みち ちようせん じぶん なつとく にゅうがく けつい いらい えいご  
の「未知への挑戦」と自分を納得させ、入学を決意、以来英語の

がくしゅう かさ  
学習を重ねております。

にゅうがくとうしよ だい いっぱい しえんしゃ がくしゅうしゃ う  
入学当初、大ホール一杯に支援者と学習者で埋めつくされた  
ねつき いような ふんいき なか はじ がくしゅう きのう  
熱気みなぎる異様な雰囲気の中で、始まった学習を、昨日のように  
おも だ わす こと  
思い出され、忘れる事はありません。

がくしゅうしゃ いちばん き しえんしゃ なかなか き すこ ふあん  
学習者にとって一番気になる支援者が仲々決まらず、少し不安で  
したが、ようやく A男子大学生が担当する事になり、ほっとしまし  
た。教える方も学習する方も手探り学習でしたが、後は仲々ユニ  
ークで、楽しい学習となり、私の英語入門を容易にしてくれた様  
な気がしました。

だいがくせい き そ えいご おし いただ すこ すす  
大学生から基礎英語のABCから教えて頂き、少し進んでから、  
じ がくしゅう こと きょうざい いしかわたくぼく ちよしょ じ  
ローマ字を学習する事となり、教材は石川啄木の著書『ローマ字  
につき ばっすい がくしゅう  
日記』からの抜粋プリント学習でした。

ほん いしかわたくぼく とうきょう ねん か につき  
この本は、石川啄木が東京にて1909年に書かれた日記ですが、  
ちょうど ねんめ ねん がくしゅう えにし たの かん  
丁度100年目の2009年に学習する縁を楽しく感じました。なぜな  
らば、いしかわたくぼく にちかん みじか くしろ たいざい かれ くしろ  
石川啄木は72日間という短い釧路滞在でしたが、彼の釧路へ  
のこ そくせき おお げんざい さか けんきゅう どうぞう か ひ かずおお  
残した足跡は大きく現在も盛んに研究され、銅像や歌碑が数多く  
まちじゅう た ごじつ じ につき としょかん  
街中に建てられております。後日、この『ローマ字日記』を図書館  
か つうどく がくしゅう よりよく おも  
から借りて通読をしておえたのも、この学習の余力だと思っております。  
わたし みじか じ ぶんしょう か  
私もようやく短いローマ字の文章が書けるようになり、  
じしゆてき しゅ しんぶんほうどう さんしょう しんぶん しゃしん く い  
自主的に主として新聞報道を参照して、新聞のカラー写真を組み入

れた、ローマ字文章を次々と書き、所々訂正をして頂き、小さな冊子を作ったのも、うれしい思い出となっております。

A大学生とは、彼の就職活動が忙しくなりここで終了する事となりました。次の支援者は女子大学生のB子さん、孫のようなチャームングな彼女にはずい分はげまされました。忙しい自分の学習時間をさいて、私のために、カラーイラスト入りの数種類の単語カードを作成してくれて、教材プリント利用して楽しく学習を進めてくれました。

この頃、学校の指導体系が変わり、今迄の一对一のペア学習からグループ学習へと変わり、Bさんは別のグループの担当となり、とても残念でしたが、卒業プレゼントを贈る事も出来て楽しい思い出となっております。

この頃、チームリーダー作成の教科書が配布され、以後、この冊子に基づいてのグループ学習となりました。グループを中心としての学習は勿論ですが、チームリーダーをカバーするため、又、数人の大学生、たった一回だけの人や二回だけの人、三回だけの人等、固定しない大学生と学習を重ねる事となりました。その中のC男子大学生には、数ヶ月指導して頂き、心の安定を得て、ゆっくり確実に学習を進める事が出来ました。

このC大学生には、とっても心に残る学習があります。少し前よ

がくしゅう はじま かい あいさつ じゅんじ がくしゅうしゃ じぶん ことば あいさつ  
り、「学習の始りの会」の挨拶を、順次、学習者が自分の言葉で挨拶  
こと わたし じゅんばん まちか ころ  
する事になり、私の順番が間近になった頃、チームリーダーより、  
えいご はな ていあん まさ せいてん へきれき  
英語で話してはどうですか？と提案され、これぞ正しく晴天の霹  
おどろ ぜっく  
と驚き、絶句してしまいました。

とき だいがくせい おうえん ぜ ひ ことば  
その時、C大学生から、応援するから是非トライしては、との言葉  
いただ けっしん こと でき  
をかけて頂き、ややあってようやく決心をする事が出来ました。

とうじ がくしゅうしゃ まえ で あいさつ ちよくぜん  
当時、学習者の前を出て、挨拶する直前まで、ただオロオロと  
おちつ だいがくせい ちからづよ しえん  
落ち着かなく、大学生からの力強いはげましの支援をうけてふるえる  
あし ふ だいがくせい とも しょうがい  
足を踏みしめてのスピーチ…。このスピーチは、C大学生と共に生涯  
わす こと わたし こころ さいさん  
忘れる事はなく、私の心の財産となっております。

わたし ちよくせつ すうにん およ だいがくせいしえんしゃ ねんどまつ  
私に直接かかわってくれた10数人に及ぶ大学生支援者も年度末  
そつぎょう しゅうしょくなど とうがっこう さ かたがた おお だいがくせい  
には、卒業、就職等で、当学校を去った方々も多く、C大学生も  
ひとり どうじ さび  
その一人ですが、うれしくもあり同時に寂しくもありました。

しんねんど じょせいせんにな  
新年度になりましてからは、バイタリティーあふれる女性専任  
しえんしゃ がくしゅう すず ときどきだっせん またまた だっせん  
支援者による学習が進められております。時々脱線、又又、脱線し  
またたの がくしゅう  
ながら、それはそれで又楽しく、それが学習にはずみがつき、さわ  
がくしゅう  
やかな学習となっております。

さいきん がくしゅう はじ ぜんいん りよう き き  
最近では学習の初めに、チーム全員でCDを利用して「聴く、聴い  
か がくしゅう き こと  
て書く」という学習をはじめております。この聴くという事はとて  
しくはっく がくしゅうそくど じゃっかん お  
もむずかしく、四苦八苦しております。学習速度は若干落ちては

いますが、<sup>さんほすす</sup>三歩進んで、<sup>ほこうたい</sup>2.5歩後退する<sup>げんじょう</sup>現状であっても、<sup>ふくしゅう</sup>復習、<sup>よしゅう</sup>予習  
を含めて、<sup>ふく</sup>今は<sup>いま</sup>学習する<sup>がくしゅう</sup>楽しさを<sup>たの</sup>感受して<sup>かんじゆ</sup>おり、<sup>けいぞく</sup>継続する<sup>こと</sup>事の<sup>げんてん</sup>原点  
はこの<sup>たの</sup>楽しさの<sup>ひとこと</sup>一言につ<sup>おも</sup>つきると<sup>おも</sup>思っております。

<sup>はなし</sup>話は<sup>すこ</sup>少し<sup>わたし</sup>それ<sup>たいりよくおんぞん</sup>ますが、<sup>いちじよ</sup>私の<sup>にちじょう</sup>体力温存の一助として、<sup>にちじょう</sup>日常ウオ  
<sup>ことし</sup>ツキング<sup>がつ</sup>をして<sup>にちかいさい</sup>おります。<sup>くしろしつげん</sup>今年も、<sup>くしろしつげん</sup>7月31日<sup>くしろしつげん</sup>開催された<sup>くしろしつげん</sup>釧路湿原マ  
<sup>ぶ</sup>ラソン<sup>さんか</sup>(ウォークの部)に<sup>もくひょう</sup>参加、<sup>せいげんじかんないかんぼ</sup>目標である<sup>じこ</sup>「制限時間内完歩」<sup>じこ</sup>「自己  
<sup>きろく</sup>記録の<sup>いじ</sup>維持、<sup>こうしん</sup>更新」の<sup>にてん</sup>二点を<sup>こと</sup>クリアする<sup>でき</sup>事が<sup>こうしきたいかい</sup>出来ました。公式大会へ  
の<sup>さんか</sup>参加は<sup>じこ</sup>自己責任が<sup>おお</sup>多いが<sup>おお</sup>とても<sup>おお</sup>はげみになります。

<sup>うんどう</sup>運動は<sup>きんにくうんどう</sup>筋肉運動<sup>あ</sup>では<sup>こと</sup>有るが、<sup>のう</sup>その事<sup>しんけい</sup>によって、<sup>せいちょう</sup>脳の<sup>せいちょう</sup>神経の<sup>せいちょう</sup>成長を  
<sup>しげき</sup>刺激する。よ<sup>てきど</sup>って<sup>うんどう</sup>適度な<sup>ぜんしん</sup>運動は<sup>けつえき</sup>全身の<sup>じゆんかん</sup>血液の<sup>のう</sup>循環、<sup>かいてん</sup>脳の<sup>うなが</sup>回転を<sup>うなが</sup>促し、  
<sup>はっそう</sup>発想、<sup>そうぞう</sup>創造が<sup>たか</sup>高まり、<sup>なにごと</sup>何事も<sup>まえむ</sup>前向きに<sup>しこう</sup>思考する、<sup>い</sup>と言われて<sup>い</sup>おりま  
す。<sup>わたし</sup>私は<sup>せつ</sup>この<sup>なつとく</sup>説を<sup>しん</sup>納得、<sup>ひびじっこう</sup>信じて<sup>ひびじっこう</sup>日々<sup>ひびじっこう</sup>実行<sup>ひびじっこう</sup>して<sup>ひびじっこう</sup>おります。

<sup>また</sup>又、<sup>とう</sup>当<sup>ちゅうがく</sup>「くるかい」<sup>みな</sup>中学<sup>いっしょ</sup>では、<sup>かい</sup>皆さんと<sup>しゅじゅ</sup>一緒に<sup>かい</sup>クリスマス会、<sup>しゅじゅ</sup>種々  
の<sup>なご</sup>レクレーション<sup>なご</sup>等、<sup>こうないこうがい</sup>校内<sup>かつどう</sup>校外の<sup>とお</sup>活動<sup>しえんしゃ</sup>を通して<sup>がくしゅうしゃ</sup>支援者<sup>がくしゅうしゃ</sup>と<sup>がくしゅうしゃ</sup>学習者<sup>がくしゅうしゃ</sup>が  
<sup>こころ</sup>心の<sup>いただ</sup>プレゼント<sup>いただ</sup>を<sup>いただ</sup>頂いて<sup>いただ</sup>おります。

<sup>さいわ</sup>幸<sup>わたし</sup>いに<sup>けんこうじょうたい</sup>して、<sup>いじ</sup>私は<sup>とうぶん</sup>まあまあの<sup>とうぶん</sup>健康状態<sup>とうぶん</sup>を<sup>とうぶん</sup>維持<sup>とうぶん</sup>して<sup>とうぶん</sup>おり、<sup>とうぶん</sup>当分は  
この<sup>たの</sup>楽しさを<sup>けいぞく</sup>継続<sup>い</sup>して<sup>おも</sup>行きたい<sup>おも</sup>と思<sup>いま</sup>つて<sup>たの</sup>おります。この<sup>いま</sup>今の<sup>たの</sup>楽しさ  
を<sup>こころ</sup>心の<sup>かて</sup>糧<sup>きょう</sup>として、<sup>きょう</sup>それを<sup>きょう</sup>昨日<sup>う</sup>から<sup>あした</sup>今日<sup>あした</sup>に<sup>ほそ</sup>受け、<sup>ほそ</sup>そして<sup>ほそ</sup>明日<sup>ほそ</sup>へと<sup>ほそ</sup>細い  
<sup>いと</sup>糸<sup>つむ</sup>を<sup>い</sup>紡<sup>おも</sup>いで<sup>おも</sup>行<sup>おも</sup>こう<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>つて<sup>おも</sup>おります。

<sup>さいご</sup>最後<sup>かいじょう</sup>になりましたが、<sup>みなさま</sup>会場の<sup>くしろ</sup>皆様、<sup>みな</sup>そして<sup>みな</sup>釧路<sup>みな</sup>「くるかい」の<sup>みな</sup>皆

さま かんしゃ  
様に感謝をこめて、

I am Chie Kawamura from Kusiro.

Thank you very much for listening.

くしろ き かわむら  
釧路から来ました、川村チエです。

せいちょう  
ご静聴ありがとうございます。



しごと ねん  
仕事をして 50年

さっぽろえんゆうじゅく  
札幌遠友塾 じゅくりクラス

たかはし  
高橋 トコ

みな  
皆さん、こんにちは。

わたし さっぽろえんゆうじゅく たかはし  
私は、札幌遠友塾 じゅくりクラスの高橋トコです。

きょう みな まえ はな たいへん おも  
今日は、皆さんの前でお話しすることができ、大変うれしく思  
います。

わたし あおもりけんしゅつしん わか ころ は  
私は、青森県出身なので、なまりがあります。若い頃には、恥  
かしく感じたこともありましたが、今では素敵な言葉だと思  
大事にしていきたいと思っています。聞き取りにくいかもしれま  
さんが、よろしくお願ひします。

わたし えんゆうじゅく にゅうがく どうき むかしちゅうがっこう そつぎょう かぎょう  
私が遠友塾に入学した動機は、昔中学校を卒業し家業を  
てつだ べんきょう きもち つの  
手伝っていましたが、勉強したい気持ちがいつそう募ってきていま  
した。そんな時に、たまたま新聞で遠友塾の記事を見つけて、これ  
だと思ひ、さっそく申し込んだわけです。

ねんかんかよ つづ まな  
5年間通ひ続け、いろいろなことを学びました。そして、これま  
でのことを作文にして、皆さんの前で発表することができるまでに  
なりました。

わたし あおもり う そだ ちち わたし せいご げつ とし な  
私は、青森で生まれ育ちました。父は私が生後5ヶ月の時に亡く  
なりました。私は末っ子だったので、さびしく悲しい日々でした。

いまおも だ はは  
今思い出せば、母によくたずねたものでした。

わたし とう はは ちち こうきょ  
「なぜ私にはお父さんがいないの？」と。母は、父が皇居のおやし  
ろにお勤めし、病気で亡くなったと話してくれました。父は島津家の  
しゅっしん はは わたし さい とき な ご  
出身でした。その母も、私が19歳の時に亡くなりました。その後も  
あに かぞく いっしょ せいかつ かぎょう のうか てつだ  
兄の家族と一緒に生活し、家業の農家を手伝っていました。そんな  
わたし しんばい さつぼろ とつ あね こ う  
私を心配して、札幌に嫁いでいた姉が、「子どもが生まれるので、  
てつだ こうじつ さつぼろ よ  
手伝ってほしい。」というのを口実に、札幌に呼んでくれました。そ  
れで、わたし さい とき あおもり さつぼろ き  
私は22歳の時に、青森から札幌に来たのです。

さつぼろ き びょういん かん ごじょしゅ さが はなし  
札幌に来てまもなく、病院で看護助手を探しているという話を  
き よくじつびょういん い き びょういん い はくい  
聞いて、翌日病院に行くことに決めました。病院に行くと、白衣を  
き かんごし み きんちょう むね  
着た看護士さんを見ただけでも、緊張して胸がドキドキしました。  
それでも、ふちょう さんにん めんせつ う  
それでも、婦長さんたち三人に面接を受けました。

びょういん しごと はじ しんばい い しんばい  
「病院の仕事は初めてなので心配です。」と言うと、「そんなに心配  
しなくとも大丈夫ですよ。ちゃんと先輩や指導者がついて一つ一つ  
おし い ほか せつめい  
教えるから。」と言われ、その他にもいろいろ説明してくれて、その  
ご しゅじゅつしつ ぶんべんしつ びょういんない しせつ あんない  
後、手術室や分娩室、そのほか病院内の施設も案内してくれまし  
た。でも、わたし はたけしごといがい しごと つ  
た。でも、私は畑仕事以外の仕事に就いたことがなかったので、  
きんちょう ふちょう かお なに はな よ おぼ  
緊張しすぎて、婦長さんの顔も、何を話してくれたのかも良く覚え  
ていませんでしたが、とにかく、かんごじょしゅ よくじつ つと  
看護助手として翌日から勤めるこ  
とになりました。

はいぞくさき さんか あか にゆうよく あしがた  
配属先は産科です。赤ちゃんを入浴させたり、足型を取ったり、  
にんぶ いどう とき お じよさんぶ  
妊婦さんが移動する時にストレッチャーを押したりする、助産婦さ  
んの手伝いをする仕事です。当時産科はすごく忙しくて、一日に 12  
にん にん あか う ひ  
人から 15人もの赤ちゃんが生まれた日もあったほどです。

めんせつ とき いっかげつ せんばい しごと み くだ  
面接の時には、「一ヶ月くらいは先輩の仕事を見ていて下さいね。」  
い はじ しゅっきん ひ やきん じよさんぶ  
と言われていたのに、初めて出勤したその日に、夜勤の助産婦さん  
じよしゅ かえ あと よてい はや さん はじ ひと  
や助手さんが帰った後すぐに、予定より早くお産が始まった人がい  
たんとう じよさんぶ たいじゅう しんちょう きょうい こくばん か  
て、担当の助産婦さんに「体重・身長・胸囲を黒板にチョークで書  
いて！」とか、「膿盆持ってきて！」「長ピンを取って」と急に言わ  
れて、何が何だかわからずに、ビックリしてブルブル震えているだ  
けでした。あと して ときう あか  
後になって知ったのですが、この時生まれた赤ちゃんは、  
びょういんはじ いらい おお あか せいごごかげつ おお  
病院始まって以来の大きな赤ちゃんで、生後五ヶ月くらいの大きさ  
だったので、着せる産着が無かったほどです。助産婦さんも、あか  
やんが大きくて大変な状況だったので、わたし き くば  
私に気を配るゆとりもな  
かったのでしょうか、さん み はじ じよさんぶ  
お産を見たのも初めてで、助産婦さんがへそ  
お き み はじ いるようきぐ なまえ  
の緒を切るのを見たのも初めてでした。医療器具の名前もわからな  
いし、チョークを持ったこともなく、すべ たいけん  
全てがはじめての体験で、ビ  
ックリすることだらけでした。あま なに で き  
余りにビックリして何も出来なかつ  
たので、よくじしごと い い  
翌日仕事に行ったら「もうやめていいよ。」と言われるかと  
おも  
思っていましたが、なに い はたら で き  
何も言われず、働くことが出来ました。

かんご 看<sup>かんご</sup>護<sup>ご</sup>のことももっときちんと<sup>まな</sup>学<sup>まな</sup>びたくて、<sup>しんぶん</sup>新聞<sup>みなら</sup>に「見<sup>み</sup>習<sup>な</sup>い募<sup>ぼ</sup>集<sup>しゅう</sup>」

か と書<sup>か</sup>いてあ<sup>よこはま</sup>った横<sup>びょういん</sup>浜<sup>べんきょう</sup>の病<sup>い</sup>院<sup>き</sup>へ勉<sup>い</sup>強<sup>き</sup>しに行く<sup>き</sup>ことに決<sup>き</sup>めました。

じなん 次<sup>う</sup>男<sup>さい</sup>が生<sup>さい</sup>まれてま<sup>さい</sup>だ2<sup>さい</sup>歳<sup>さい</sup>にもな<sup>さい</sup>っていま<sup>さい</sup>せん<sup>さい</sup>でし<sup>さい</sup>た<sup>さい</sup>が、<sup>おっと</sup>夫<sup>ないしょ</sup>にも内<sup>ないしょ</sup>緒<sup>お</sup>で決<sup>き</sup>めました。

ちとせくうこう 千<sup>ひこうき</sup>歳<sup>の</sup>空<sup>の</sup>港<sup>とき</sup>から飛<sup>かぞく</sup>行<sup>ないしょ</sup>機<sup>はじ</sup>に乗<sup>はじ</sup>る時<sup>はじ</sup>、家<sup>はじ</sup>族<sup>はじ</sup>に内<sup>はじ</sup>緒<sup>はじ</sup>でき<sup>はじ</sup>てしま<sup>はじ</sup>ったの<sup>はじ</sup>と、初<sup>はじ</sup>

め<sup>ひこうき</sup>て飛<sup>の</sup>行<sup>うれ</sup>機<sup>しんばい</sup>に乗<sup>きもち</sup>るので、嬉<sup>ひこうき</sup>しいよ<sup>ひこうき</sup>うな心<sup>ひこうき</sup>配<sup>ひこうき</sup>なよ<sup>ひこうき</sup>うな気<sup>ひこうき</sup>持<sup>ひこうき</sup>ちで、飛<sup>ひこうき</sup>行<sup>ひこうき</sup>機<sup>ひこうき</sup>

まど そと み な の窓<sup>な</sup>の外<sup>な</sup>を見<sup>な</sup>なが<sup>な</sup>ら泣<sup>な</sup>いてしま<sup>な</sup>いま<sup>な</sup>した。そ<sup>な</sup>うし<sup>な</sup>たら、ス<sup>な</sup>チュ<sup>な</sup>ワー

デ<sup>な</sup>スさん<sup>な</sup>が「ど<sup>な</sup>うして泣<sup>な</sup>いてい<sup>な</sup>るの<sup>な</sup>です<sup>な</sup>か？」と<sup>な</sup>き<sup>な</sup>いた<sup>な</sup>ので訳<sup>わけ</sup>を<sup>はな</sup>話<sup>はな</sup>す

とな<sup>ひこうき</sup>ぐさ<sup>の</sup>め<sup>きねん</sup>て<sup>しゃしん</sup>く<sup>うつ</sup>れて、飛<sup>ひこうき</sup>行<sup>の</sup>機<sup>きねん</sup>に乗<sup>しゃしん</sup>った<sup>うつ</sup>記<sup>うつ</sup>念<sup>うつ</sup>にと写<sup>うつ</sup>真<sup>うつ</sup>を<sup>うつ</sup>写<sup>うつ</sup>して<sup>うつ</sup>くれ<sup>うつ</sup>ま

した。

だま 黙<sup>い</sup>って行<sup>い</sup>ってしま<sup>い</sup>った<sup>い</sup>ので、家<sup>いえ</sup>の人<sup>ひと</sup>も横<sup>よこはま</sup>浜<sup>びょういん</sup>の病<sup>ひと</sup>院<sup>ひと</sup>の人<sup>ひと</sup>もビ<sup>ひと</sup>ック<sup>ひと</sup>リ

して<sup>よこはま</sup>いま<sup>つ</sup>した。横<sup>おっと</sup>浜<sup>でんわ</sup>に着<sup>さいきんなん</sup>いて<sup>さいきんなん</sup>から<sup>さいきんなん</sup>夫<sup>さいきんなん</sup>に電<sup>さいきんなん</sup>話<sup>さいきんなん</sup>をし<sup>さいきんなん</sup>たら「最<sup>さいきんなん</sup>近<sup>さいきんなん</sup>何<sup>さいきんなん</sup>だ<sup>さいきんなん</sup>か<sup>さいきんなん</sup>ソ

ワ<sup>おも</sup>ソ<sup>い</sup>ワ<sup>い</sup>して<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>のでお<sup>い</sup>か<sup>い</sup>しい<sup>い</sup>と思<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>いた<sup>い</sup>んだ。」と<sup>い</sup>言<sup>い</sup>われ<sup>い</sup>まし<sup>い</sup>た。

おっと 夫<sup>しゅうと</sup>もお<sup>りかい</sup>姑<sup>こ</sup>さん<sup>めんどう</sup>も理<sup>み</sup>解<sup>み</sup>して<sup>み</sup>くれ<sup>み</sup>て、子<sup>こ</sup>ども<sup>めんどう</sup>の面<sup>み</sup>倒<sup>み</sup>を見<sup>み</sup>て<sup>み</sup>くれ<sup>み</sup>まし<sup>み</sup>た。

よこはま 横<sup>びょういん</sup>浜<sup>びょういん</sup>の病<sup>しじゅつしつ</sup>院<sup>ないか</sup>では、手<sup>さんか</sup>術<sup>せいしんか</sup>室<sup>しょうにか</sup>・内<sup>きんむ</sup>科<sup>きんむ</sup>・産<sup>きんむ</sup>科<sup>きんむ</sup>・精<sup>きんむ</sup>神<sup>きんむ</sup>科<sup>きんむ</sup>・小<sup>きんむ</sup>児<sup>きんむ</sup>科<sup>きんむ</sup>と勤<sup>きんむ</sup>務<sup>きんむ</sup>し

まし<sup>いちばんなが</sup>た<sup>はたら</sup>が、一<sup>ないか</sup>番<sup>しごと</sup>長<sup>うご</sup>く<sup>まわ</sup>働<sup>まわ</sup>いた<sup>まわ</sup>のは<sup>まわ</sup>内<sup>まわ</sup>科<sup>まわ</sup>です。仕<sup>まわ</sup>事<sup>まわ</sup>で動<sup>まわ</sup>き<sup>まわ</sup>回<sup>まわ</sup>って<sup>まわ</sup>い<sup>まわ</sup>ると、

かんじゃ 患<sup>なか</sup>者<sup>いそが</sup>さん<sup>うご</sup>の中<sup>まわ</sup>には「あ<sup>まわ</sup>ん<sup>まわ</sup>た<sup>まわ</sup>は<sup>まわ</sup>い<sup>まわ</sup>つ<sup>まわ</sup>も<sup>まわ</sup>忙<sup>まわ</sup>しく<sup>まわ</sup>動<sup>まわ</sup>き<sup>まわ</sup>回<sup>まわ</sup>って<sup>まわ</sup>い<sup>まわ</sup>る<sup>まわ</sup>けれど、

きょうせんたくもの 今日<sup>ほ</sup>洗<sup>しんぶん</sup>濯<sup>てんきよほう</sup>物<sup>よ</sup>が干<sup>よ</sup>せる<sup>よ</sup>かど<sup>よ</sup>う<sup>よ</sup>か新<sup>よ</sup>聞<sup>よ</sup>の天<sup>よ</sup>気<sup>よ</sup>予<sup>よ</sup>報<sup>よ</sup>を<sup>よ</sup>読<sup>よ</sup>んで<sup>よ</sup>あ<sup>よ</sup>げ<sup>よ</sup>る<sup>よ</sup>から。」

と<sup>い</sup>言<sup>しんせつ</sup>って<sup>い</sup>くれ<sup>い</sup>た<sup>い</sup>親<sup>い</sup>切<sup>い</sup>な<sup>い</sup>お<sup>い</sup>じ<sup>い</sup>い<sup>い</sup>さん<sup>い</sup>も<sup>い</sup>いま<sup>い</sup>し<sup>い</sup>た。ま<sup>い</sup>た、「あ<sup>い</sup>ん<sup>い</sup>た<sup>い</sup>、北<sup>い</sup>海<sup>い</sup>道<sup>い</sup>

に<sup>かえ</sup>帰<sup>かんご</sup>ら<sup>かえ</sup>ない<sup>い</sup>で<sup>い</sup>ね。看<sup>かえ</sup>護<sup>い</sup>し<sup>い</sup>ても<sup>い</sup>ら<sup>い</sup>っ<sup>い</sup>て<sup>い</sup>い<sup>い</sup>る<sup>い</sup>人<sup>い</sup>に『帰<sup>い</sup>り<sup>い</sup>たい』<sup>い</sup>って<sup>い</sup>言<sup>い</sup>わ

れるのが一番辛いんだ。」と泣かれたこともありました。

横浜に住んでいるときも、子どものことは良く思い出しましたが、とにかく一生懸命仕事をしました。主人が心配して、様子を見に来てくれたこともありました。私も時々札幌に戻りながら、平成15年まで働きました。

主人にも「そろそろ帰ってきなさいと言われ、また、私も充分勉強し働いたので、札幌に帰ることにしました。

札幌に帰ってきたときには、58歳になっていました。それまでずっと仕事をしていたので、家でじっとしてられなくて、整形外科病院を紹介してもらってつとめることにしました。

横浜の病院では、仕事の仲間の人も患者さんや家族の人も親切にしてくれました。いろいろお世話になったので、どうにか恩返しできないかなと思い、札幌の病院でも神奈川県出身の患者さんが来たときには、恩返しだと思ってお世話をさせてもらっています。雪の日には、患者さんのコートや襟の雪を払ってあげるととても喜ばれます。

看護助手として仕事をしてきましたが、そのうちにヘルパーの制度が出来ましたので、頑張っ、六ヶ月かかる講習を受けて、ヘルパー2級の資格も取りました。

3年前、NHKで放送された翌日、いつものように仕事に行くと、

いんちょうせんせい　　み　　かんどう　　い  
院長先生が、「テレビを観ましたよ。感動しましたよ。」と言われた  
ので、<sup>は</sup>恥ずかしく<sup>おも</sup>思いました。でも先生は、「<sup>は</sup>恥ずかしがることはな  
い<sup>たかはし</sup>ですよ。高橋さん<sup>かんしん</sup>感心ですね。」といってくれました。そして、「僕  
もいつまでできるかわからないけれど、<sup>でき</sup>出来る<sup>かぎ</sup>限り<sup>つづ</sup>続けていくので、  
<sup>いっしょ</sup>一緒に<sup>い</sup>やってく<sup>わたし</sup>ださい<sup>かぎ</sup>ね。」と言<sup>わたし</sup>ってく<sup>かぎ</sup>れているので、私もできる限  
<sup>つづ</sup>り<sup>おも</sup>続けて<sup>おも</sup>いきたい<sup>おも</sup>と思っています。

じゅうにん　　なかま　　わたし　　さいこう  
じっくりクラスには十人の仲間がいます。私にとっては最高の  
<sup>たからもの</sup>宝物<sup>えんゆうじゆく</sup>です。遠友塾<sup>よ</sup>は<sup>ところ</sup>良い所<sup>ところ</sup>です。

さいご　　き  
最後まで<sup>き</sup>聞いて<sup>き</sup>いただき、<sup>き</sup>ありがとう<sup>き</sup>ございました。



「くるかい」と私

くしろ  
釧路「くるかい」

おがわ こ  
小川 サヨ子

みなさま  
皆様、こんばんは…

くしろ まな おがわ こ もう  
釧路「くるかい」で学んでいる、小川サヨ子と申します。

ことし ねんめ ねんめ えいご ねんめ  
今年で3年目になるんですが、1年目は英語グループで、2年目か  
ら国語グループに学んでいます。

さくねん せいかつ みつちやく りっぱ こくご ほん つく  
去年は生活に密着した立派な国語の本を作っていたいただき、それを  
もと ぶんしょう か かた たんか しゅうじ ねんがじょう じき  
基に文章の書き方、短歌をやったり、習字をやったり、年賀状の時期  
にはハガキの書き方などをやり、「力」が入りました。

たんか せんせい は げんかん  
短歌では先生がすだれに貼ってプレゼントしてくれました、玄関  
つる  
に吊しています。

とき く よ き  
その時の句を読みます、聞いてください。

○ かんれき しつげん かぜ せ う  
還暦に、湿原の風、背に受けて

まご はし しあわ かん  
孫と走れる、幸せ感じ…

○ きずついた、こころ  
きずついた、心をとらす

くるかいで、みらい ひとすじ みち  
くるかいで、未来をとらす、一筋の道

こんねんど かんじ よ が  
そして今年度、漢字の読み書きをやっています。

かんじ せんいっぽん おお すく きおく  
漢字では線一本が多かったり、少なかったりと記憶があいまいも

こです。四文字熟語も良かったです。ちょっと興味があり、夫にパソコンで出してもらったら、あるは、あるは…

グループ A さんとの会話によく出てきます、素敵です。

あんな会話が出来るといいなあ～と思います。

毎月第4火曜日は合同学習になっていて、まどみちおさんの詩とか三好達治さんの詩で、「涙をぬぐって働こう」っていう詩が好きです。また5月の授業では「北海道とフランスのちょっと不思議な関係・謎の話」フランスに住んでいた先生の歴史の授業で日常ふれる事が出来ないお話しも印象に残りました。

また時々、全員で歌う童話も大きな声を出して、リラックスして

授業に入るのもいいです。そして先日英語グループに誘ってもらい、

北斗遺跡へ行った時のこと、近くにあっても始めて見た、この社会

見学に私たちは朝からはしゃいでいました。

そこで遠い記憶がよみがえりました。

「あの煙の臭い」私が4～5歳の頃バーバについて、じいちゃん炭焼き小屋に行った時のなつかしい臭いでした。

そこに持って行った「おにぎり」を食べたこと、私にとって「バーバ」は絶対的な人でした。どこへ行くにも一緒について歩き、疲れ

たらおんぶして、寝る時もいつもくっついていて、そのバーバが

小学校入学式の朝、他界しました。

そして10ヶ月後には、母が突然倒れ昏睡のまま乳飲み子を残して、  
帰らぬ人に、36歳でした。

その1年後にじいちゃんも…ととてもとても悲しい出来事に私は、  
「ショック」で、「恐怖」で、学校で二度おもらしをしました。尿意  
を感じないのです。

今考えると父こそ、想像を絶する境地におかれたのだと思います。  
時を越えてそ〜と寄り添い抱きしめてあげたい、その父はふるさと  
のニュースがテレビに映ると、くいいるように見っていました。

一度もふるさとに帰ることなく、私が17歳の時亡くなりました。

両親とは短すぎる親子の縁でした。義務教育は終了しているの  
ですが、貧しい農家でしたから、家の手伝いの方が大事でした。

とはいえ、今思うに自分が勉強しなかつただけのことと思います。

父も母も岩手の人でした。両親の生まれ育った所、写真を抱いて

姉・弟でいつか見に行きたいな〜と思っていた矢先の東北を襲っ

た大震災に、原発事故、被災地の方々がこれ以上苦しめないように

政治の力を結集してと願うばかりです。

親を亡くした子供たちの精神的ケアを、子供は家の宝、国の宝

です。私には何もできませんが、みんなが心から笑顔が戻ること

を祈っています。

私この10月で61歳になります。61年間幸せなこともいっぱいあ

ります。<sup>かな</sup> 悲しいこともいっぱいありました。「<sup>かずかず</sup> 数々の<sup>たいけん</sup> つらい体験もす  
べて自分の<sup>じぶん</sup> 財産と、<sup>ざいさん</sup> とらえて行くのよ」と<sup>い</sup> 教えてくれた人<sup>おし</sup> がいます。<sup>ひと</sup>  
<sup>ほんとう</sup> 本当に<sup>おも</sup> そう思います。

この<sup>たいけん</sup> 体験を<sup>げんてん</sup> 原点にしなくてもいい<sup>くろう</sup> 苦勞を<sup>ひ</sup> 引き受けてくれた<sup>う</sup> 叔父<sup>おじ</sup> ・  
<sup>おば</sup> 叔母に見守られて、<sup>いま</sup> 今もうすぐ<sup>にんめ</sup> 7人目の<sup>まご</sup> 孫に<sup>めぐ</sup> 恵まれた<sup>しあわ</sup> 幸<sup>こんにち</sup> せな今日が  
あるのですから…ごく<sup>へいぼん</sup> 平凡な<sup>しあわ</sup> 幸<sup>まいにち</sup> せをかみしめながら<sup>す</sup> 毎日を<sup>す</sup> 過ごし  
て<sup>い</sup> 行きたいと思<sup>おも</sup> っています。

<sup>いま</sup> 今こうして「<sup>まな</sup> くるかい」で<sup>きょういくねっしん</sup> 学んでいること、<sup>ちち</sup> 教育熱心だった<sup>ちち</sup> 父と  
<sup>はは</sup> 母は<sup>よろこ</sup> きっと喜<sup>おも</sup> んでいると思<sup>じぶんじしん</sup> います。自分自身を<sup>すこ</sup> 少しでも<sup>こうじょう</sup> 向上させ、  
<sup>しあわ</sup> 幸<sup>ろうご</sup> せな老後<sup>おく</sup> を送れるように<sup>たの</sup> 楽しみながら<sup>つづ</sup> 続けて<sup>い</sup> 行きたいと思<sup>おも</sup> っ  
ています。

「<sup>せんせい</sup> くるかい」の先生、<sup>なかま</sup> スタッフそして<sup>みな</sup> 仲間<sup>であ</sup> のみなさん、<sup>であ</sup> 皆さんに出会  
<sup>こころ</sup> えて<sup>おもに</sup> 心の重荷に<sup>て</sup> そっと<sup>ひ</sup> 手を引いてくれる、「<sup>いばしょ</sup> あったかあ〜い」居場所  
<sup>よろこ</sup> に<sup>かんしゃ</sup> 喜びと感謝<sup>かんしゃ</sup> でいっぱいです。

<sup>ほんとう</sup> 本当に<sup>ほんとう</sup> ありがとうございます。

<sup>みな</sup> 皆さん<sup>わたし</sup> 私の<sup>はなし</sup> 話を<sup>き</sup> 聞いて<sup>き</sup> いただいて<sup>き</sup> ありがとうございます。



わたし

## 私のあしあと

さっぽろえんゆうじゆく  
札幌遠友塾

いわふね  
岩船 とよ

わたし ほっかいどうねむろはんとう ちい ぎよそん は ぼまいむらあざふらり そだ  
私は北海道根室半島の小さな漁村（歯舞村字婦羅理）で育ちま  
した。2歳の時病気で父が亡くなり、母を中心に11人の子どもが暮  
らす生活でした。当時は“産めよ、増やせよ”の時代だったので、子  
だくさんの我が家の部屋の壁には国から贈られた賞状が飾られて  
いたのを覚えています。

せんそう はじ あに にん にん かいぐんへい ひとり  
やがて戦争が始まり、兄7人のうち5人が海軍兵として、一人が  
りくぐんへい せんじょう い はは てあし  
陸軍兵として戦場に行きました。母が「カニが手足をもがれたよう  
なものだ」と泣いていたのを今でも思い出します。結局4人が戦死  
し、家に戻れませんでした。

せんご こんらん なか しょうがくよねんせい わたし かぎょう こんぶりょう てつだ  
戦後の混乱の中、小学4年生の私は家業の昆布漁の手伝いが  
いそが がっこう い てんき よ こんぶ ぼ  
忙しく、ほとんど学校へ行けませんでした。天気が良ければ昆布干  
しに追われ、雨が降れば小屋で昆布の砂落しに追われる毎日でした。

おとな こ あさ ゆうがた お み しごと  
大人も子どもも朝から夕方まで、終わりの見えない仕事だったよう  
に思います。だから学校に行ける日はあまりなく、たまに行っても  
じゅぎょう いねむ で ろうか た  
授業にはついていけず、居眠りも出て、廊下に立たされたことも  
たびたび がっこう あし とお  
度々ありました。それでますます学校から足が遠のきました。それ

せんし あに こ さい さい ふたり こ こもり  
に戦死した兄の子どもが1歳と3歳と二人いて、その子らの子守も

わたし やく や せ ひく わたし こもり いちばんつら しごと  
私の役でした。痩せて背の低い私には子守が一番辛い仕事でした。

きんじょ どうきゅうせい たの げこう すがた  
近所の同級生が楽しそうにおしゃべりしながら下校する姿を、  
こや かげ かく み めい こ おい こ  
小屋の陰に隠れて見ていました。むずかる姪っ子と甥っ子をあやし  
ながら生徒が通り過ぎるのを待つ自分が、哀れでした。

とうじ むら うみ やま しぜん こもり の  
当時の村は、海も山も自然がいっぱいでした。子守をしながら野  
いちご と で くちもと ま か た めい こ み  
苺を採りに出かけ、口元を真っ赤にして食べている姪っ子たちを見  
ていると、学校にいけないことも、忙しい仕事のことも忘れられま  
つら まいにち なか たの いまおも ふとうこう  
した。辛い毎日の中のひとときの楽しみでした。今思えば、不登校の  
じぶん わたし なつとく めい とお むかし たの  
自分を私なりに納得させたかったのでしょう。姪は遠い昔の楽し  
かったことだけを今でも覚えていて、会うといつも夜更けまで話は  
つきません。

ねんげつ わたし ちゅうがくせい しょうがっこう きそ でき  
年月がたち私も中学生になりましたが、小学校の基礎が出来て  
いなかったので相変わらず劣等生でした。当時選択科目があり、私は  
かていか はい かもく わか しょうがく  
家庭科に入りました。が、どの科目もさっぱり分らず、いかに小学  
じだい べんきょう たいせつ つうかん ちゅうがく はい がっこう  
時代の勉強が大切であることを痛感しました。中学に入っても学校  
やす はは らくだい ていど い よ かる  
を休むようになり、母も「落第しない程度に行っていればよし」の軽  
きも  
い気持ちでいたようです。

ちゅうがく ねん いちがつき お ごろ とうじ ねむろちょう げんざいし とつ  
中学2年の一学期の終わり頃、当時の根室町（現在市）に嫁いで  
ちょうじょ すえ こ わたし ようじょ い  
いた長女が末っ子の私を養女にしたいと言ってきたそうです。  
かって はなし すす はは ちい まち むら  
勝手に話が進んで、母に「小さな町でも村よりましなところだし、

まえ しょうらい かんが おも まご おお たいへん  
お前の将来を考えたらいいと思うよ。孫も大きくなって大変にな  
って来るしな…」と言われ、私わたしも辛い浜仕事つら はましごとから逃れられると思おもい、  
はは わか  
母と別れることにしました。

ねむろちゅうがっこう てんこう じゅぎょう また  
根室中学校に転校したものの、授業に又ついていけないことと、  
なによりも友だちが中々出来ず「来なければ良かった」と後悔こうかいしま  
した。一度ならず二度も逃げ帰り「貧乏も仕事も辛い。勉強も  
いちど にど に かせ びんぼう しごと つら べんきょう  
頑張るから…」と母を困らせました。けれどもついに母の涙に負け、  
さんど もど けっしん  
三度と戻らない決心をしました。

けっしん さみ きも か  
決心はしましたが、寂しい気持ちには変わりありませんでした。  
わたし ちゅうがく そつぎょう でき ふたり あくゆう せんざい  
そんな私が中学を卒業出来たのは、二人の悪友の存在でした。  
かのじょ べんきょう でき わたし つら かな わか  
彼女らは勉強も出来ましたが、私の辛さや哀しさも解ってくれま  
した。投げやりになっている私わたしに付き合あって、時々は学校をサボっ  
えいが み い いちばんおし  
て映画を見に行ったりしてくれました。でも一番教えてもらったの  
とも たいせつ いま かのじょ だいじ わたし とも  
は友だちの大切さでした。今でも彼女らは大事な私の友だちです。

ちゅうがくせいかつ お しょくさが はじ でき わる ちゅうそつ  
中学生生活をやっと終え職探しを始めましたが、出来の悪い中卒  
わたし おも しごと み てんてん  
の私には思うような仕事が見つからず、アルバイトを転々としまし  
た。卒業から2年目にたまたま見た新聞広告に〈印刷工員を求む〉  
の おうぼ うんよ さいよう せいしやいん  
と載っていました。応募したところ運良く採用となりました。正社員  
になれるかと思おもうと嬉うれしくて、どんな仕事しごとでも楽たのしく一生懸命働  
ころ き ころ かつばん じだい す  
こうと心に決めました。その頃はまだ活版の時代でしたので、刷り

あ はん かいばん せきゆ あら お かつじ  
上がった版は解版してインクを石油で洗い落とし、活字をケースに  
もど すぎょう て まいかいま くる た とお  
戻すという作業でした。手は毎回真っ黒になり、おまけに立ち通し  
たいへん しょくば はい いちじ お こ こ  
で、大変な職場に入ったものだと一時は落ち込みました。でも子ど  
ころ なん に だ わたし いま しんぼう とき こころ  
もの頃から何でも逃げ出したくなる私は、「今が辛抱する時」と心  
なか じぶん はげ  
の中で自分を励ましたものです。

がまん かい ねんめ いろいろ げんこう み かんたん  
我慢の甲斐あって2年目あたりから、色々な原稿を見ながら簡単  
かつじ ひろ ぶんせん しごと はんじんまえ  
な活字を拾う文選の仕事をさせてもらえるようになり、「半人前から  
すこ いちにんまえ ちか よろこ ぶんせん  
少しは一人前に近づいたのかなあ」と喜びでいっぱいでした。文選  
がっこう おぼ かんじ おぼ で き  
をしながら学校で覚えられなかった漢字を覚えることが出来ました。  
しごと ちゅうがくせい こうこうせい ぶんしょう よ わたし  
仕事で中学生や高校生の文章を読むこともありました。私もこん  
がっこうせいかつ おく うらや おも こ たち じゅんすい  
な学校生活を送りたかったと羨ましく思ったり、子ども達の純粋  
かんどう よ か すこ す  
さに感動したりもしました。読むこと、書くことが少しずつ好きに  
なっていき、そんな仕事のなかで人の優しさ、関わり方を学びまし  
た。

へいせい ねん がつころゆうじん いっしょ がっこう い こえ  
平成21年の1月頃友人から「一緒に学校に行ってみない？」と声を  
わたし とき さい こく すう えい しゃ よんきょうか  
かけられました。私はその時73歳でしたが、国・数・英・社の四教科  
まな こころ うご よる がっこう おっと そうだん  
を学ぶことに心が動きました。夜の学校なので夫に相談したら  
じぶん よ い  
「自分が良かったらやっていいよ」と言ってくれました。

にかいじゅぎょう けんがく ねんれい かんけい い い  
二回授業を見学しました。年齢に関係なくみんなが生き生きして  
きょうしつじゅう えがお せいと  
いました。教室中が笑顔でした。それは生徒だけでなく、スタッ

ひと おな しょうがくせい ときろうか た せんせい むし  
フの人も同じでした。小学生の時廊下に立たされたり、先生に無視  
されたりした経験がある私には、それはとても新鮮な光景でした。

わたし べんきょう つよ おも にゅうがくしき ま とお  
私はここで勉強したいと強く思いました。入学式がとても待ち遠  
しく思われました。

わたし いちばんべんきょう えいご まち で  
私が一番勉強したかったのは英語でした。街へ出かけるとヨコ  
も じ かんばん とも ま あ たてもの じ  
文字の看板ばかりです。友だちと待ち合わせしても、建物のローマ字  
よ ふあん たびたび えいご べんきょう  
が読めなくて不安になることが度々ありました。英語を勉強すれば  
かんばん よ きたい げんじつ なかなかたいへん  
すぐ看板が読めるようになると期待したのです。が、現実は今中々大変  
でした。

にゅうがくしき おわ じゅぎょう はじ はじ おも  
入学式が終り、いよいよ授業が始まりました。初めは思ったよ  
むずか かん しんぱい まいしゅうすいようび  
り難しいと感じ、ついていけるか心配でした。でも、毎週水曜日に  
こうりょうちゅうがく かいだん あ くどうだいひょう とうじ  
向陵中学の階段を上がっていくと、工藤代表（当時）が「こんば  
えがお むか えがお せんせい う と  
んは」と笑顔で迎えてくれました。その笑顔は、まだ先生にも打ち解  
わたし きんちょう やわ まいしゅう  
けられないでいる私たちの緊張を和らげてくれました。毎週ずつ  
か やさし わたし  
と変わらない優しさに、私はいつもホッとしています。

よんきょうか なか わたし す えいご いちばんくろう  
四教科の中で私が好きなのは英語です。でも一番苦労しているの  
えいご はつおん えいご か たいへん  
も英語です。発音はともかく、英語で書くのが大変です。いちいち  
きょうかしよ み か あたら ことば ひと  
教科書を見なければ書けないのです。それでも新しい言葉を一つで  
おぼ ころ なかま つか  
も覚えると心がうきうきします。いままでは、サークル仲間の使っ  
も じ ことば わか じぶん はな はい  
ているヨコ文字の言葉が分らず、自分だけが話しに入っていけない

ことがありました。でも今は分からない言葉は辞書を引くようにして  
います。ヨコ文字の言葉に対して不安はなくなってきました。それ  
どころか、街に出てアルファベットを見つけると何が書いてあるか  
と注意するようになっていきます。地下鉄の駅名を読みたくて、用も  
ないのに地下鉄に乗ることもあります。

遠友塾に入るまで計算で特に困ったことはありませんでした。

小学生の時も算数は嫌いな科目ではありませんでした。特に暗算は  
好きでした。だから遠友塾の数学も最初は「そうだった」と余裕で  
した。でも1年の終わり頃から少しずつ難しくなってきました。特  
に異分母の掛け算、割り算あたりから混乱するようになりました。

授業を受けている時は理解したつもりでも、家に帰って問題を解こ  
うとすると中途半端な理解だったことに気づかされました。でも  
理屈が分って正解にたどり着いた時は「やれば私でも出来るんだ」

と達成感を味わいます。毎回渡される家での練習問題は（国語もそ  
うですが）正直言って面倒だと思ふときもあります。でもそのお陰  
で着実に力がついてきていとお感しています。

小学生の時は国語と音楽が好きでした。学校は休みがちでしたが、

作文ではほめられたこともありました。「良く書けているな」という

先生の一言が嬉しくて、「もっとがんばろう」と思つたものです。数少

ない学校での楽しい思い出です。そんなこともあって、私は文選の

しごと えら き かんじ おぼ おも  
仕事を選んだような気がします。それで漢字も覚えられたのだと思  
います。

えんゆうじゅく こくご いちばんかん か たいせつ し  
遠友塾の国語で一番感じるのは「書く」ことの大切さです。詩や  
はいく とくい かんそうぶん てがみ か す  
俳句などは得意ではありませんが、感想文や手紙などを書くのは好  
きです。べんきょう なか かとうたいち とく ところ のこ  
勉強した中では加藤多一さんの「ホシコ」が特に心に残る  
さくひん しゅじんこう じぶん かさ よ  
作品でした。主人公のホシコやコウに自分を重ねて読んでいました。  
かんそうぶん すなお か えんゆうじゅく はい  
だから感想文も素直に書けました。遠友塾に入らなければ「ホシコ」  
であ いみ えんゆうじゅく まな よ  
との出会いはなかったでしょう。その意味でも、遠友塾で学べて良  
かったおも  
かっと思っと思っています。

しゃかいか じゅぎょう ねんせい とき にほん さくせい  
社会科の授業では2年生の時に「日本のレポート」を作成しまし  
た。クラスではやっ 8つのグループに分かれて、わ にほん かくし とくちょう  
日本の各市の特徴など  
をレポートするのです。わたし こうちし えら にん  
私たちは「高知市」を選びました。5人が  
てわ ちめい ゆらい じんこう れきし さんぎょう めいしょ  
それぞれ手分けして、地名の由来、人口、歴史、産業、名所などを  
しら わたし としょかん い しら いえ しら わか  
調べました。私は図書館に行って調べました。“家で調べても分ら  
ないことは図書館で調べる”というべんきょう しかた えんゆうじゅく まな  
勉強の仕方も、遠友塾で学んだ  
ことのひとつです。

えんゆうじゅく かよ はじ ねんななかげつ  
遠友塾に通い始めて2年7ヶ月たちました。  
こ ころがっこう にがて いま むかし なつ おも だ  
子どもの頃学校は苦手でしたが、今は昔のことが懐かしく思い出  
されます。まえ はな ちゅうがく ねん ねむろちゅうがっこう てんこう  
前にも話しましたが、中学2年で根室中学校に転校し  
とき なじ はなし  
た時、なかなかクラスのみんなに馴染めませんでした。話をしよう



としても田舎弁でしか話せず、言葉  
がどもりました。でもそんな私を気  
づかってくれる友だちがいました。

遠友塾でも勉強は大事ですが、  
友だちはもっと大切です。夜の授業

で気重になる週もありますが、みんなに会えるのが楽しみで通いま  
す。「こんばんは」「こんばんは」とお互いに交わす元気な声。この  
三年間を通して、何でも話せる友だちは宝です。大切な宝です。

今回体験発表をすることになって初めは「大変なことを引き受け  
てしまった」と思いました。でも書いていくうちに「泥棒をして生き  
てきたわけではない。ひとつひとつ石を渡るようにして生きてきた  
私の生き方は、少しも恥ずかしいことはないのだ」と思えるようにな  
りました。

「あしあと」という題名には二つの意味があります。一つは物心  
ついた頃から今まで歩いてきた「あしあと」です。もう一つは、こ  
れから歩いて残していく「あしあと」です。遠友塾を卒業してか  
らもう良い「あしあと」を残していきたいと思っています。「これが自分  
なんだ」と胸張って言える今が、幸せです。



しかい  
(司会)

あさひかわ かた たいけんはっぴょう き かんそう ねが  
旭川の方で体験発表を聞いた感想をお願いします。

あさひかわえんゆうじゅく じゅこうせい  
(旭川遠友塾 受講生)

おそ  
遅くなってすみません。それで3名の方の発表しか聞くことがで  
きなかつたのですが…。

みなさん苦勞なさって学校を卒業して、学校で学べなかつたこと  
を高齢になってから学んだ喜びとか楽しさとかは、いままで苦勞し  
たけれど苦勞でなかつたというプラス思考な考えかたをしています。

わたし さい ねんまえ つと あさひかわえんゆうじゅく はい  
私は64歳です。4年前まで勤めていました。旭川遠友塾に入っ  
たきっかけは孫に勉強を教えたい、私も当時、家が貧しかったも  
のですから中学しかでておりません。再度、もう一回勉強してみ

たいという<sup>きも</sup>気持ちで<sup>はい</sup>入りました。

わたし <sup>びんぼう</sup> <sup>くろう</sup> <sup>ねんかんつと</sup> <sup>にん</sup> <sup>かた</sup>  
私も<sup>きも</sup>貧乏して<sup>き</sup>苦勞して40年間<sup>わたし</sup>勤めあげました。でも3人の<sup>しあわ</sup>方たち

の<sup>いろいろ</sup>色々な<sup>きも</sup>気持ちを<sup>き</sup>聞いたら、<sup>わたし</sup> <sup>しあわ</sup>まだまだ私は<sup>しあわ</sup>幸せで<sup>しあわ</sup>やってきたのか

な<sup>おも</sup>という<sup>おも</sup>想い、でもその<sup>くろう</sup> <sup>くろう</sup> <sup>おも</sup>苦勞を<sup>しこう</sup> <sup>かんが</sup>苦勞と思わないで<sup>しこう</sup> <sup>かんが</sup>プラス<sup>かんが</sup>思考に<sup>かんが</sup>考

えている<sup>きも</sup>その<sup>あたた</sup> <sup>とも</sup> <sup>よろこ</sup> <sup>わたし</sup> <sup>あさひかわえんゆうじゅく</sup>気持ちの<sup>あたた</sup>暖かさ、<sup>とも</sup>友を<sup>よろこ</sup>えた<sup>よろこ</sup>喜び、<sup>わたし</sup>私も<sup>あさひかわえんゆうじゅく</sup>旭川遠友塾で

<sup>たくさん</sup> <sup>とも</sup> <sup>おも</sup>  
沢山の<sup>おも</sup>友だちを<sup>おも</sup>えました。これから<sup>おも</sup>も<sup>おも</sup>つくって<sup>おも</sup>いこう<sup>おも</sup>と思います。

わたし <sup>おも</sup> <sup>べんきょう</sup> <sup>すす</sup> <sup>よ</sup>  
私の<sup>おも</sup>想い<sup>べんきょう</sup>なんですけど、<sup>すす</sup>勉強<sup>よ</sup>が<sup>よ</sup>どんどん<sup>よ</sup>進む<sup>よ</sup>のは<sup>よ</sup>良い<sup>よ</sup>のですが、

<sup>せいと</sup> <sup>や</sup> <sup>ひと</sup> <sup>み</sup>  
生徒<sup>せいと</sup>によっては<sup>や</sup>ついて<sup>や</sup>いけなくて、<sup>ひと</sup> <sup>み</sup>止め<sup>ひと</sup>たく<sup>み</sup>なる<sup>み</sup>ような<sup>み</sup>人も<sup>み</sup>見<sup>み</sup>う<sup>み</sup>け

られる<sup>わたし</sup> <sup>ひと</sup> <sup>ひと</sup>  
んです<sup>わたし</sup>よ。でも<sup>わたし</sup>私は<sup>ひと</sup>その<sup>ひと</sup>ような<sup>ひと</sup>人に<sup>ひと</sup>「<sup>ひと</sup>いい<sup>ひと</sup>じゃない<sup>ひと</sup>ですか。

たとえば、<sup>けいさん</sup> <sup>ひと</sup> <sup>おぼ</sup> <sup>よ</sup>  
2×2=4<sup>けいさん</sup>の<sup>ひと</sup>計算<sup>おぼ</sup>でも、<sup>よ</sup>この<sup>よ</sup>一つ<sup>よ</sup>を<sup>よ</sup>覚え<sup>よ</sup>られたら<sup>よ</sup>良い<sup>よ</sup>じ

ゃない<sup>かん</sup> <sup>や</sup> <sup>はげ</sup> <sup>わたし</sup>  
の<sup>かん</sup>」<sup>や</sup>という<sup>はげ</sup>感じ<sup>わたし</sup>で、<sup>わたし</sup>止め<sup>わたし</sup>ない<sup>わたし</sup>よう<sup>わたし</sup>励<sup>わたし</sup>ま<sup>わたし</sup>して<sup>わたし</sup>います。私も<sup>わたし</sup>ここ

で<sup>まな</sup> <sup>えがお</sup> <sup>とも</sup> <sup>わ</sup> <sup>ひろ</sup> <sup>へいわ</sup> <sup>とも</sup>  
学<sup>まな</sup>んでいる<sup>えがお</sup>のは、<sup>とも</sup>みな<sup>わ</sup>さん<sup>ひろ</sup>が<sup>へいわ</sup>笑<sup>とも</sup>顔<sup>とも</sup>で<sup>とも</sup>友<sup>とも</sup>だ<sup>とも</sup>ち<sup>とも</sup>の<sup>とも</sup>輪<sup>とも</sup>を<sup>とも</sup>広<sup>とも</sup>げて<sup>とも</sup>、<sup>とも</sup>平<sup>とも</sup>和<sup>とも</sup>と<sup>とも</sup>友

だ<sup>わ</sup> <sup>にほん</sup> <sup>せかい</sup> <sup>たの</sup>  
ち<sup>わ</sup>の<sup>にほん</sup>輪<sup>せかい</sup>をつ<sup>たの</sup>な<sup>たの</sup>げて<sup>たの</sup>、<sup>たの</sup>日<sup>たの</sup>本<sup>たの</sup>も<sup>たの</sup>世<sup>たの</sup>界<sup>たの</sup>も<sup>たの</sup>楽<sup>たの</sup>しく<sup>たの</sup>や<sup>たの</sup>っ<sup>たの</sup>て<sup>たの</sup>い<sup>たの</sup>け<sup>たの</sup>たら<sup>たの</sup>い<sup>たの</sup>い<sup>たの</sup>かな

という<sup>おも</sup> <sup>おも</sup>  
想<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>です。

スタッフ<sup>ねが</sup> <sup>お</sup> <sup>ひろ</sup>  
の<sup>ねが</sup>みな<sup>お</sup>さん<sup>ひろ</sup>に<sup>ひろ</sup>お<sup>ひろ</sup>願<sup>ひろ</sup>い<sup>ひろ</sup>し<sup>ひろ</sup>たい<sup>ひろ</sup>のは、<sup>ひろ</sup>落<sup>ひろ</sup>ち<sup>ひろ</sup>こ<sup>ひろ</sup>ぼ<sup>ひろ</sup>れ<sup>ひろ</sup>でも<sup>ひろ</sup>拾<sup>ひろ</sup>って

くれる<sup>しどう</sup> <sup>ねが</sup> <sup>おも</sup>  
指<sup>しどう</sup>導<sup>ねが</sup>を<sup>おも</sup>よろ<sup>おも</sup>しく<sup>おも</sup>お<sup>おも</sup>願<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>し<sup>おも</sup>たい<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ます。

いま<sup>めい</sup> <sup>かた</sup> <sup>すば</sup> <sup>はっぴょう</sup> <sup>おも</sup> <sup>とも</sup>  
の<sup>めい</sup>3<sup>かた</sup>名<sup>すば</sup>の方<sup>はっぴょう</sup>は<sup>おも</sup>素<sup>おも</sup>晴<sup>おも</sup>ら<sup>おも</sup>しい<sup>おも</sup>発<sup>おも</sup>表<sup>おも</sup>と思<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ます。これから<sup>とも</sup>友<sup>とも</sup>だ<sup>とも</sup>ち<sup>とも</sup>に

な<sup>はなし</sup> <sup>き</sup> <sup>おも</sup>  
って、<sup>はなし</sup>また<sup>き</sup>お<sup>おも</sup>話<sup>おも</sup>を<sup>おも</sup>聞<sup>おも</sup>か<sup>おも</sup>せ<sup>おも</sup>て<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>た<sup>おも</sup>だ<sup>おも</sup>き<sup>おも</sup>たい<sup>おも</sup>とい<sup>おも</sup>う<sup>おも</sup>想<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>で<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>ます。ど

う<sup>おも</sup>も<sup>おも</sup>あ<sup>おも</sup>り<sup>おも</sup>が<sup>おも</sup>と<sup>おも</sup>う<sup>おも</sup>ご<sup>おも</sup>ざ<sup>おも</sup>い<sup>おも</sup>まし<sup>おも</sup>た。

しかい  
(司会)

スタッフにちょっと耳の痛い話もありましたが、すごく良くわかりました。ありがとうございました。

ほっとしたところで、今日発表された高橋トコさんにひとこと

たかはし  
(高橋トコ)

みなさんのネ、発表に比べたらまだまだ苦労じゃない。私は歩けるまで遠友塾におります。

しかい  
(司会)

高橋トコさんは、歩けるまで遠友塾に通いたいということです。

すごい、すごい、その気持ちすごいです。

私は高橋トコさんと一緒に勉強して長いので、私と同じように

このような場でとっても緊張するのを心配しましたが、今日は落ち

ついてりっぱに発表されたので、とてもうれしいです。

夕べ眠れなかったそうですね。

たかはし  
(高橋トコ)

遠友塾の方たちが沢山いるものだから、恥ずかしくて、どうにも

ならなかったです。

しかい  
(司会)

とても味のあるすてきな発表でした。どうもありがとうございました。

した。

きょう ねむ  
今日はゆっくり眠れそうですね。

では、つぎも札幌遠友塾の岩船さんに発表を終えての感想を聞きます。

いわふね  
(岩船)

ありがとうございます。緊張しました。なんというのでしょうか  
ほっとしました。

しかい  
(司会)

どれくらい準備されて発表文をまとめたのですか？

いわふね  
(岩船)

発表の文を、いざ書いてみると、話の順が後先になったり、やさしくまとめられなかったりで、今日、このような発表を何とかするというのは、「エイ」という気持ちでいました。

けれど、何度も先生と文章を読んでいくうち、ここをこう直したらいいのではとか、このように改めたらいいのではなどと話し合いました。そうしてこのような文にまとめることができました。

この機会に、私の生きてきたことを話させてもらえる場を作ってもらえたことで、これまでの考えも変わりました。

卒業できるかどうか判りませんが、3年間通して、みなさんと一緒になって、先生スタッフの方々と心を通わせてきたことは一番の宝だと思っています。ありがとうございました。

しかい  
(司会)

ありがとうございました。

つぎの方かたです。とても落ちついて話はなしていましたが、どうでしたか。

(くるかい かわむら  
川村)

大変たいへんへたな英語えいごなどちょっといれまして、アヤでわたしございます。私自身じしんはすごく満足まんぞくして学校がっこうに通かよっています。でも夜間中学やかんちゅうがくという「中学ちゅうがくに行いっていない人ひとしか入はいれないの」と、何人なんにんにも聞きかれるんですよ。私わたしはたまたま高校こうこうも出でてますけどネ。あまり限定げんていしないで募集ぼしゅうしたほうがっこうが学校ひとをでた人きらくたちも気楽おうぼに応募おもうできるんじゃないかなど、初めはじから感かんじていたんですよ。

お友ともたちから「私わたしなんか行いってもダメなんだろうか」といわれて、「私わたしなんかぜんぜん感かんじないで応募おうぼしました」といったんですけど、そういうのでちゅうちょひとしている人がいます。

勉強べんきょうはしたいが、何かなにいまさらという人ひとたちが沢山たくさんおりますのでね。そういう人ひとたちも掘ほり起おこせたらいいんじゃないかなと思おもっています。そのために私わたしがガンバレかんがばと、とんでもない考もえを持もっておりませう。

今日きょうは、ほのぼのとしたみなさんの生活せいかつ、家庭かていのこきを聞きかせていただき、アー人生じんせいは色々いろいろなんだなと思おもいました。ありがとうございました。

いました。

しかい  
(司会)

つぎに釧路の発表者の方、いかがでしたか。

おがわ  
(小川)

自分もつらい体験をずいぶんしてきたとおもっていたんですけど、「くるかい」にきてから、私なんかただ、自分のなかに閉じこもっていただけなんだなあーという感じで、まだまだすごい体験をした人の話を聞かせてもらいました。

私、いままで自分を貶めないとか、人と比べないとか、イヤなことを思いださないとかいうようなことをモットーにしたんですけどね。

このたびの体験発表も、自分の過去をみなさんの前でさらけ出すということは、すごい勇気のいることだったんです。それと発表することが、やっと終わってほっとしているところです。

しかい  
(司会)

ありがとうございます。

では、今日来られなかった函館遠友塾の発表者についてのご意見や感想を聞かせてもらいます。函館遠友塾のスタッフの方がいらっしゃいます。発表を聞いて涙ぐんでいましたね。

はこだて  
(函館スタッフ)

はこだて き わたなべ もう  
函館から来ました渡辺と申します。スタッフをやらしていただい  
ています。きょう はこだてえんゆうじゅくだいひょう いまし じっこういんちょう  
今日は函館遠友塾 代表の今西さんが実行委員長という  
ことなに おうえん き  
で、何か応援できることがないか、ということに来たんですが、  
なに き  
何もできなくて。後ろで聞いていただけなんです、みなさまの思い  
を聞かせていただき感動しました。きんどう

じつ わたし ぎ ぼ えんゆうじゅく かよ わたし おく むか  
実は、私の義母も遠友塾に通っていて、私が送り迎えしていま  
す。ぎ ぼ いっしょ つら か こ はなし き  
その義母もみなさんと一緒に、辛い過去の話を聞かせてもらい  
ました。きょう かた はっぴょう き  
ですけど、今日、そういう方たちの発表を聞かせていただ  
いて、ほかにも沢山いるんだなあということで、ほんとう  
たいけん おも  
体験がすごいと思えました。

はこだて はっぴょうしゃ めい かた きょうく よ  
函館の発表者2名の方が、今日来れば良かったのですけれど、DVD  
はっぴょう くろだ こうれい み とお  
で発表していただきました。黒田さんも高齢ですが、見た通りシャ  
キっとしてしまして紳士です。しんし いろいろ  
そして、いつもニコニコして色々な  
お話をしてくれて、はなし おも  
すごくガンバリ屋さんです。あのような方はい  
つまでも、こうれい ひゃくさい  
つまでも、高齢ですからいつまでもとはいかないですが、百歳まで  
ガンバッテほしいな、えんゆうじゅく ひゃくさい ひと はっぴょう  
遠友塾に百歳の人が出て、また発表できれ  
ばいいかなとおも  
と思っています。まだ遠友塾では、ひゃくさい かよ ひと  
百歳で通った人は  
いないですね。くろだ おも  
ぜひ、黒田さんにガンバッテほしいなと思えます。

きょう たいけん き かんどう  
今日はみなさまの体験を聞かせていただき感動いたしました。どう

もありがとうございました。

しかい  
(司会)

ありがとうございました。自分も書きたくなつたという方がいら  
つしゃるといいんですけど。

それでは札幌遠友塾の卒業生として、後輩の話聞いていかが  
でしょうか。

いわさき  
(岩崎)

こんにちは、遠友塾卒業生の岩崎と申します。平成19年度に  
卒業いたしました。でも、いまのみなさまの発表を聞きまして、私  
こんなに情熱なかつたのではないかというぐらいすごい、志が  
すごいと思いました。私はこんなに情熱を持ってなかつたではな  
いかしらと思うぐらいすばらしかったです。

はこだて くらだ すどう ぜんぜんねんれい かん はな  
函館の黒田さんとか、須藤さんとかは、全然年齢を感じさせない話  
かた ほんとう  
し方で本当にびっくりしています。

しかい  
(司会)

それでは札幌遠友塾のクラスメートの感想をいただきたいと思  
います。

ねんじゅこうせい  
(3年受講生)

いろいろ かた いけん かんそう き べんきょう  
色々な方のご意見や感想を聞かせていただき、とっても勉強にな  
りました。私も遠友塾の3年生にあつという間になってしまいま

した。まだまだ卒業したくない気分です。以上です。

しかい  
(司会)

いまのは、岩船応援団の方です。今日来る時、バスで一緒になっ  
たんです。

つぎに高橋トコ応援団で、若い寺島さんいかがでしたか。

てらしま  
(寺島)

すごくいいですね。あまり年齢は関係ないです。

しかい  
(司会)

寺島さん、年齢が私とほぼ近いです。まだ若いですけど。

ではもう一人、高橋トコさんと勉強している桑山さんです。桑山

さんもかつて東京でおこなわれた、全国夜間中学校研究大会で

体験発表をしました。いかがですか。

くわやま  
(桑山)

みなさんの発表を聞かせていただきましたら、私のことなんか

問題じゃないなと思いました。みなさんもガンバッテいるから、私

もこれからもまだまだガンバラせていただきたいなと思っています。

みなさん一緒に頑張りましょう。

しかい  
(司会)

もう一人、高橋トコさん応援団の伊藤フサコさんに一言。

いとう  
(伊藤)

とても素晴らしかったと思います。トコさんも頑張ったし、私も  
これからも頑張ります。

しかい  
(司会)

フサコさんが頑張るなら私も頑張ります。どうもありがとうございます  
いました。

つぎは札幌遠友塾の新スタッフの方です。

たなか  
(田中)

札幌遠友塾のスタッフをさせていただいています。こう見えても  
私、現役の小学校の教員なんですが、すみません。

いつも思うんです。いままで何人も子どもたちの担任をさせてい  
ただいたんですけど、学校へ行きたくないとか、勉強ヤダとか言っ  
ている子どもたちに、いつも遠友塾に連れていきたいなと思ってい  
ます。

また学ぶことの楽しさとかおもしろさを知ってもらいたいという  
のもあるし、あと遠友塾の話の時々教室でするんですけど、小学  
1年生や2年生の子どもでも、感心するというか「へー？」か、何と  
いうのかな、遠友塾のことをしみり聞いてくれるというのがうれ  
しいと思っています。

それと同時に、今日の発表でも分ったんですけど、私たち教員

が、わざと悪いことをしているわけではないのですが、<sup>わる</sup>心ない言動<sup>こころ げんどう</sup>

が色々な人を傷つけたりしていることもあるのだろなということで、<sup>いろいろ ひと きず</sup>

日頃十分に反省しなければと、<sup>ひごろじゅうぶん はんせい</sup>思いましたし、<sup>おも</sup>いつも思っ<sup>おも</sup>てスタッ

フさせていただいています。

スタッフのことなんですけど、<sup>けっきょく わたし いろいろまな</sup>結局、私が色々学ばせていた

だいていますので本当に感謝しています。<sup>ほんとう かんしゃ</sup>

発表された方々、<sup>はっぴょう かたがた ほんとう</sup>本当にありがとうございます。

<sup>しかい</sup>  
(司会)

つぎに旭川遠友塾のスタッフの方から一言いただきます。<sup>あさひかわえんゆうじゅく かた ひとこと</sup>

<sup>ふじお</sup>  
(藤尾)

旭川でスタッフをさせていただいております藤尾と申します。<sup>あさひかわ ふじお もう</sup>

本日は発表された方、<sup>ほんじつ はっぴょう かた すば はっぴょう</sup>素晴らしい発表をありがとうございます。

今回の発表を聞きまして、<sup>こんかい はっぴょう き わたし いま なん くろう だいがく</sup>私が今まで何の苦労もなく大学まで

勉強をつづけてこられた親へのありがたさというものと同時に、<sup>べんきょう おや どうじ とも</sup>友

だちというものは非常に大事だということを改めて感じました。<sup>ひじょう だいじ あらた かん</sup>

私は兵庫県出身なんですが、<sup>わたし ひょうごけんしゅっしん こうべ こうりつ や かんちゅうがっこう</sup>神戸に公立夜間中学校というもの

が数多くありまして、<sup>かずおお わたし ひめじ しゃかいか じゅぎょう</sup>私は姫路なのですが、社会科の授業で、

中学校の頃に自主夜間中学、<sup>ちゅうがっこう ころ じしゅやかんちゅうがく こうりつやかんちゅうがく</sup>公立夜間中学とはどういうものなの

か、<sup>かた かよ</sup>どういう方が通ってらっしゃるのか、<sup>べんきょう</sup>ということを勉強してき

たので、<sup>じぶん だいがくせい やかんちゅうがく かた かか</sup>自分が大学生になってこのように夜間中学の方たちと関わ

れることを、そのような環境かんきょうにいられることをうれしく思おもっております。

私わたしは大学生だいがくせいでして、まだまだ指導力しどうりょくという面めんでは劣おとっているところはあるんですけれど、今回の発表こんかい はっぴょうを聞きまして、私わたしでも何か少しなに すこでも力ちからになれるように、また大学だいがくに戻もどって一生懸命いっしょうけんめい勉強べんきょうして生徒せいとのみなさんにいい授業じゅぎょうができるよう自分自身じぶんじしんを高たかめていきたいとあらたあらたにおもおもいまして。発表はっぴょうされた方かた、みなさんありがとうございます。改あらためて思おもいました。

しかい  
(司会)

では、ずっと見守みまもってくださっている支援者しえんしゃの方かたにお願いねがいたします。

くどう  
(工藤)

札幌遠友塾さっぽろえんゆうじゅくさんじょかいいんくどうもうきょういろいろかたけいけんくろういろいろはっぴょうたいへんかんしゃくろうしたことを、色々いろいろと発表はっぴょうしていただきました。大変感謝たいへんかんしゃしております。

とく はこだて くろだ たいしょう ねん う い  
特に函館はこだての黒田くろださんですか、大正たいしょう9年生ねん生まれというふういに言いって  
おりました。じつは私わたしも大正たいしょう10年生ねん生まれなんです。来月らいげつ(11月)がつ  
で90歳さいになります。黒田くろださんのお話はなし聞いておりました非常ひじょうに感動かんとく  
たわけです。

いずれにしましても、私わたしも若い頃ころというか子どもこの頃ころから青年せいねんに

たっ ぎ む きょういく げんどうりよく  
達するまでは、義務教育が原動力でございました。ですから

しょうがっこう ねんせい おわ かねも きゅうせい ちゅうがっこう  
小学校6年生を終ると、それからお金持ちは旧制の中学校に2

ねんかん わたし きゅうせい こうとう  
年間いきました。私はそういうところへいけないので、旧制の高等

しょうがっこう ねんかん しゅうしょく  
小学校に2年間いきました。それで就職したわけです。

しゅうしょく やかん きょうようがっこう きゅうせいちゅうがっこう  
就職しているときに夜間の教養学校いわゆる旧制中学校で

かよ ねんかんべんきょう べんきょう  
すね、そこへ通うようになりまして4年間勉強して、勉強して

ちゅうがっこう そつぎょう かたち  
中学校を卒業したという形になっております。

そつぎょう だいてうあせんそう はじ わたし しょうわ ねん  
卒業してまもなく大東亜戦争が始まりまして、私は昭和18年に

へいたい と あくうんつよ かせ  
兵隊に取られまして、ラバウルまでいきましたが、悪運強く帰って

これなんです。

こ じだい せいねんじだい かんが わたし  
そういうような子ども時代、青年時代を考えると、私が

しょうわ しょうがっこう ねん はい しょうわ ねん まんしゅうじへん はじ  
昭和3年に小学校1年に入り、昭和6年に満州事変が始まりまし

た。そうしているうちに支那事変、大東亜戦争が始まったというこ

わたし こ じだい せいねん たつ つね せんそうじょうたい  
とで、私の子どもの時代から青年に達するまでには、常に戦争状態

にほん じつじょう  
であったということが日本の実情でございます。

せいかつ おお  
というなかで生活をし、だんだん大きくなったわけですが、い

せいかつたいけん きほんとう べんきょう  
まこうやってみなさんの生活体験を聞いていまして、本当に勉強が

かた おも えんゆうじゆく  
できなかつた方がたくさんいるんだろうと思ひまして、遠友塾で

べんきょう すば おも  
勉強できるのが素晴らしいことだと思っております。

べんきょう たの がっこうせいかつ  
これからもますます大いに勉強していただいて、楽しい学校生活



くどう  
(工藤)

さつぼろえんゆうじゅく くどう さつぼろえんゆうじゅく がっこう つか  
札幌遠友塾の工藤です。札幌遠友塾が学校を使えるようになったのは、それまで会場かいじょうにしていた札幌市民会館さつぼろしみんかいかんが取り壊とされるというこわことになりまして、そのことが新聞しんぶんに出て5年後ねんごに取り壊としになるということでした。

とうじ えんゆうじゅく じゅこうせい あ めい  
当時すでに、遠友塾はスタッフと受講生とを合わせて150名の規模きぼに成なっていましたので、こういう公共施設こうきょうしせつで使える場所ばしょがないんですね。

たとえば、今日使用きょうしようしているエルプラザでも、この部屋へやでは足りないですね。非常ひじょうに困こまりぬきまして、どうしたらいいんだろうと札幌市教育委員会さつぼろしきょういくいんかいと色々いろいろ話はなしているうちに、札幌市教育文化会館さつぼろしきょういくぶんかかいかんを使つかってはどうかという話はなしがされました。

まずそこを、2年間使用ねんかんしようしました。その一方で、私わたくしたちは学校がっこうの教室きょうしつを使つかいたいという希望きぼうもありました。なぜかという。学校がっこうの門もんを一度いちどもくぐったことが無い人なひともいましたから、学校がっこうで授業じゅぎょうを受うけたいという、その願ねがいもかなえなかった。

また、さきほど釧路くしろでは、行政ぎょうせいの支援しえんを受けて会場費かいじょうひがゼロと言いいましたけど、札幌さつぼろの場合ばあいでは、公共施設こうきょうしせつでも、ずっとお金かね払はらっていたんです。

しみんかいかん ねんかん まんえん きょういくぶんかかいかん しゅう かい つか  
市民会館は年間60万円、それから教育文化会館は週1回4つ使

って110万円かかる。これではどうしようもないということで、半額  
減免の措置を受けることができるようお願いしました。これが、  
行政が私たちに支援してくれた第一歩でした。

いまどうにか、なんとかかんとか色々な人の協力と支援のもと  
向陵中学校で授業をできるようになりました。教材など置場  
の問題も解決されました。

それでいま、年間かかる会場費で、札幌市教育委員会に払うお金  
は8万円程度です。ですから、教育文化会館の会場使用に比べ50  
万円程浮くんです。

それは月々みなさんからいただく受講料を500円引き下げ、1,000  
円にしました。つぎはまた、500円引き下げて月500円にしたいです  
けど、まだちょっと、そこまではということです。

札幌遠友塾の場合は、向陵中学校という普通の中学校を使え  
たことが、お金の面からいっても、私たちの希望からいっても、何  
はともあれ居場所をはっきりさせることで必要だったと思っています  
す。

そしていま、向陵中学校の先生方、生徒さん、PTAの方、  
町内会の方たちの協力や支援をえながら、何とか安心して授業  
ができるようになってきました。

もちろんまだまだ色々な課題はあるんですけど、学校の教室って

じゅぎょう おこな いちばん しせつ おも つか  
授業を行うには、ぼくはやはり一番いい施設とっています。使っ  
おも がっこう きょうしつ まな つく  
て思ったのは、学校の教室って学ぶために作られているんですよ。

また、この公共施設は学ぶこともできますけど、ほかのことにも  
つか まな どうぐ ぜんぶ がっこう  
使える、そして学ぶための道具は全部そろっています。この学校  
きょうしつ りよう こんご つづ おも  
教室の利用を今後も続けていきたいとっていますけど、まだまだ  
きぼう たくさん えんゆうじゅく どくりつ こうしゃ  
希望は沢山あります。遠友塾の独立した校舎がほしいなあとか、  
いろいろ ゆめ おも  
色々な夢のようなことは思っています。

さっぽろえんゆうじゅく こうりょうちゅうがっこう こうりつ  
そういうことで、札幌遠友塾はいまの向陵中学校という公立の  
ちゅうがっこう つか  
中学校を使わせていただいています。

### しかい (司会)

がっこう つか えんゆうじゅくにゆうがくしゃ がくれき かんけい  
学校を使っていることと、遠友塾 入学者の学歴が関係してくる  
のかどうかを含めた質問だったんですよ。

### いのうえ (井上)

しんにゆうせいぼしゅう いちおう めやす しょうがっこう  
いま、新入生募集の一応の目安としては、いわゆる小学校、  
ちゅうがっこう ぎ むきょういく じゅうぶん う じゅうぶん  
中学校の義務教育を十分に受けられなかった、この充分という  
ひじょう  
のは非常にあいまいなのですが、もちろん学校に通えなかった人は  
にゆうがく  
入学することができます。

はっぴょう せいかつ とちゅう じぶん  
さきほどの発表にもありましたけれども、生活の途中で、自分の  
いえ いそが てつだ がっこう い  
家が忙しく、その手伝いで学校に行けなかったとか、そういうよう  
おも いちおう めやす ぎ むきょういく  
なこともあるとは思いますが、一応の目安として、義務教育を

じゅうぶん うけ 充分に受けられなかったところにおいでいます。しかし、<sup>かなら</sup>必ずしも<sup>ちゅうがく</sup>中学を出たからといって一律にダメですよ、とはしておりません。

ただ、いま<sup>わたし</sup>私たちが利用している向陵<sup>りょう</sup>中学校では、1クラス25<sup>こうりょうちゅうがっこう</sup>名が受け入れの限度です。個別<sup>こべつがくしゅう</sup>学習をする「じっくりクラス」は別<sup>べつ</sup>ですけれども、3<sup>がくねんつう</sup>学年通じて入学<sup>にゅうがく</sup>希望者をすべて受け入れるには、50<sup>う い</sup>人<sup>にんきょうしつ</sup>教室では無理です。希望者はもっと多くいるのが実情です。

お答えとしては、<sup>かなら</sup>必ずしも、義務<sup>ぎむきょういく</sup>教育を受けられていないとい<sup>う</sup>う<sup>がくれき</sup>学歴で、入学<sup>にゅうがく</sup>のお断りをしていません。

しかい  
(司会)

いまの札幌<sup>さっぽろえんゆうじゅくだいひょう</sup>遠友塾代表<sup>たい</sup>に対して、秋田<sup>あきた</sup>さんから再<sup>さい</sup>質問<sup>しつもん</sup>がありますが、あまり個別<sup>こべつ</sup>にならないように<sup>ねが</sup>お願いします。

あきた  
(秋田)

質問<sup>しつもん</sup>ではありませんが、学校<sup>がっこう</sup>の校舎<sup>こうしゃ</sup>で勉強<sup>べんきょう</sup>したいという<sup>き</sup>気持ちは<sup>わか</sup>分るんです。それを<sup>わか</sup>分っていて聞<sup>き</sup>くんですが、校舎<sup>こうしゃ</sup>を使<sup>つか</sup>いたいとな<sup>ると</sup>ると義務<sup>ぎむきょういく</sup>教育を受けられなかったというので、あなたたち<sup>ぎょうせい</sup>行政に<sup>せきにん</sup>も責任<sup>も</sup>あるでしょ、といって持<sup>も</sup>っていくと校舎<sup>こうしゃ</sup>が使<sup>つか</sup>えると感<sup>かん</sup>じます。  
もっと受け入れ<sup>う い</sup>範囲<sup>はんい</sup>を広<sup>ひろ</sup>げるとか、それは生涯<sup>しょうがいきょういく</sup>教育、社会<sup>しゃかいじん</sup>人<sup>きょういく</sup>教育の範囲<sup>はんい</sup>で受け入れ<sup>う い</sup>しようとする<sup>こうしゃ</sup>とすると、校舎<sup>つか</sup>が使<sup>つか</sup>えなくな<sup>て</sup>ってくる<sup>きけんせい</sup>危険性<sup>おも</sup>があるんじゃないかと思<sup>おも</sup>います。

くしろ 釧路<sup>くしろ</sup>くるかいの「イノベーション<sup>じぎょう</sup>事業<sup>かたち</sup>」みたいな形<sup>しょうがいきょういく</sup>で、生涯<sup>しょうがいきょういく</sup>教育

めん ぎょうせいしえん う しょうかい  
の面から行政支援を受るようなものも紹介されましたが、そのよ  
うにもっとやかんちゅうがく かつどう ひろ おも  
うにもっと夜間中学の活動を広げてもいいのかなと思ったもので  
すから。

ちゅうがっこう ちゅうがっこう こうしゃ えんゆうじゅく じゅぎょう  
中学校というのにこだわり、中学校の校舎で遠友塾の授業を  
することにこだわるあまり、う い せば  
受け入れを狭めることになるのではな  
いか、そのようなことを聞きたかったんです。

さっぽろえんゆうじゅく いいつか  
(札幌遠友塾 飯塚)

ぎょうせい けんかい めいかく こた  
行政の見解は明確である、ということでお答えします。

じしゅ やかんちゅうがく ぎょうせい しょうがいきょういく いち  
自主夜間中学については、行政は生涯教育に位置づけており  
ます。そして、こうりつやかんちゅうがっこう がっこうきょういく いち  
公立夜間中学校は学校教育に位置づけられています。

ぎょうせい  
(どこの行政ですか)

さっぽろしきょういくいいんかい さっぽろし ぜんこく どうよう  
札幌市教育委員会、そして札幌市ともです。また、全国でも同様  
いち  
に位置づけられています。

うえ さっぽろし えんゆうじゅく がっこうきょうしつ か しょうがい  
その上で、札幌市が遠友塾に学校教室を貸すにあたって、生涯  
がくしゅうすいしん き そ がくしゅう まな なお いち  
学習推進における基礎学習の学び直しと位置づけました。

さくねん さっぽろしきょういくいいんかい えんゆうじゅく かつどう せきにな  
さらに昨年、札幌市教育委員会は遠友塾の活動について責任を  
お けんかい しめ がっこう きょうしつ  
負う、という見解を示しました。そのことは、これからも学校の教室  
か つづ こうりょうちゅうがっこう か  
を貸し続けてくれる、かりに向陵中学校を貸すことができなくな  
ったとしても、どうとう じょうけん た ちゅうがっこう か  
同等の条件で他の中学校を貸してくれるというこ

とです。

しかい  
(司会)

ありがとうございました。秋田さんとりあえずよろしいですか。

では、つぎの方、眼が合ったのでどうぞ。

さっぽろえんゆうじゅくそつぎょうせい  
(札幌遠友塾 卒業生)

18期生で卒業したものです。みなさん色々な体験発表をしてい

ただきまして、何かまだまだ、私はひよっ子だなんて思いました。

みなさんすごく苦労なさって、そのなかで苦労を克服してね、

一生懸命頑張っているということを経験発表のなかで聞かしてい

ただいて、本当に頭が下がる想いでおります。みなさんこれからも

学びを続けて欲しいと思いました。ありがとうございました。

しかい  
(司会)

遠友塾を卒業された後、自主的な学習グループ「みどりの仲間」

を作って学習されています。遠友塾を3年間通って卒業してから

ですが。

なかまがくしゅうしゃ  
(みどりの仲間学習者)

仕事忙しいので通える機会が中々無い時もあります。勉強は

とてもいいなと思います。早くこども卒業したいなと思っています。

しかい  
(司会)

早く卒業したいそうです。ではいよいよここに来ました。

いま遠友塾に通いつつ先輩たちの発表をどう思いますか。

はやし  
(林)

みなさんの発表を聞いて頭が下がります。私も学んだことを忘  
れることばかりですが、これからも頑張ります。

しかい  
(司会)

その日は覚えたつもりでも、家に帰ると中々思い出せないという  
のがありましたから、私も同じです。

はやし  
(林)

みなさんえらいと思います。

しかい  
(司会)

では、続いて。

こまつ  
(小松)

私は札幌遠友塾2年生ですが、今度3年生になるわけですが、  
さらにその上がある訳ですよね。高校とかね。そういうのに行きた  
い人というか、挑戦してみたいなという感じの方は、いままでいら  
っしいましたか。

さつぼろえんゆうじゅく いずみ  
(札幌遠友塾 泉)

昨年さくねんの記録きろくに載のっていたんですけども、今日きょうは余あまり会場かいじょうに見え  
ていないようですけれども、遠友塾えんゆうじゅくを卒業そつぎょうされた後あとの高校こうこう入学にゅうがくに  
ついてですよね。

ではまず、<sup>こうこうにゆうがく</sup>高校入学したご本人の<sup>ほんにん</sup>岩崎<sup>いわさき</sup>さんに説明<sup>せつめい</sup>してもらいまし  
よう。

<sup>いわさき</sup>  
(岩崎)

<sup>えんゆうじゅく</sup>遠友塾<sup>そつぎょう</sup>を卒業<sup>へいせい</sup>いたしまして、平成<sup>ねん</sup>19年に札幌<sup>さっぽろひがしこうこう</sup>東高校<sup>ていじせい</sup>の定時制に  
<sup>はい</sup>入りまして、<sup>つうじょう</sup>通常<sup>ねん</sup>4年<sup>そつぎょう</sup>で卒業<sup>もんぶしょう</sup>なんですけど、<sup>しけん</sup>文部省<sup>う</sup>の試験<sup>う</sup>を受け  
<sup>たんい</sup>て単位<sup>と</sup>を取りまして<sup>ねん</sup>3年<sup>そつぎょう</sup>で卒業<sup>しゃかいじんがくしゅう</sup>しました。いま社会人<sup>しゅう</sup>学習<sup>う</sup>という  
<sup>だいがく</sup>かUHB大学<sup>と</sup>というところに<sup>ねん</sup>2年目<sup>ねんめ</sup>になりますが、<sup>い</sup>行<sup>い</sup>っております。

<sup>えんゆうじゅく</sup>遠友塾<sup>わたし</sup>は私<sup>しゅつぱつてん</sup>の出発点<sup>まえ</sup>なので、<sup>まえ</sup>ここから<sup>すす</sup>前に前<sup>すす</sup>にと進<sup>すす</sup>めてくれた  
というか、<sup>きも</sup>これから<sup>げんざい</sup>もや<sup>べんきょう</sup>らな<sup>べんきょう</sup>きやという<sup>べんきょう</sup>気持ち<sup>べんきょう</sup>で、<sup>べんきょう</sup>現在<sup>べんきょう</sup>も勉<sup>べんきょう</sup>強<sup>べんきょう</sup>して  
おります。

<sup>いずみ</sup>  
(泉)

<sup>どうない</sup>道内<sup>こうこう</sup>の高校<sup>とく</sup>については、<sup>ていじせいかうこう</sup>特に<sup>がっこうちょう</sup>定時制<sup>さいりょう</sup>高校<sup>ちゅうがく</sup>は学校<sup>ちゅうがく</sup>長の<sup>ちゅうがく</sup>裁量<sup>ちゅうがく</sup>で中学<sup>ちゅうがく</sup>  
<sup>そつぎょう</sup>卒業<sup>しかく</sup>の資格<sup>う</sup>がなくとも<sup>い</sup>受け入<sup>い</sup>れてくれる<sup>い</sup>んです<sup>い</sup>ね。<sup>ほうりつ</sup>そういう<sup>ほうりつ</sup>法律<sup>ほうりつ</sup>が  
<sup>いわさき</sup>ありますので、<sup>ばあい</sup>岩崎<sup>がっこう</sup>さんの場合<sup>ねが</sup>も学校<sup>ねが</sup>に<sup>ねが</sup>お願い<sup>ねが</sup>したら、<sup>こころ</sup>心<sup>ひ</sup>よく<sup>ひ</sup>引き  
<sup>う</sup>受<sup>くだ</sup>けて<sup>くだ</sup>下さい<sup>くだ</sup>ました。

<sup>わたし</sup>私<sup>やかんていじせい</sup>も夜間<sup>きょういんけいけん</sup>定時制<sup>わか</sup>の教員<sup>わか</sup>経験<sup>わか</sup>がある<sup>わか</sup>もの<sup>わか</sup>ですから<sup>わか</sup>よく<sup>わか</sup>分<sup>わか</sup>る<sup>わか</sup>んです  
<sup>じつ</sup>が、<sup>どうない</sup>実は<sup>やかんていじせいかうこう</sup>道内<sup>いわさき</sup>の夜間<sup>やかんちゅうがく</sup>定時制<sup>まな</sup>高校<sup>まな</sup>では<sup>まな</sup>岩崎<sup>まな</sup>さんの<sup>まな</sup>ように<sup>まな</sup>夜間<sup>まな</sup>中学<sup>まな</sup>で学  
<sup>ひと</sup>んだ人<sup>き</sup>が<sup>き</sup>ぜひ<sup>き</sup>来<sup>き</sup>て<sup>き</sup>ほしい<sup>き</sup>という<sup>き</sup>要望<sup>き</sup>が<sup>き</sup>多い<sup>き</sup>のです<sup>き</sup>。

という<sup>わか</sup>のは<sup>わか</sup>若い<sup>わか</sup>人は<sup>わか</sup>全<sup>わか</sup>日<sup>わか</sup>制<sup>わか</sup>を<sup>わか</sup>退<sup>わか</sup>学<sup>わか</sup>したり<sup>わか</sup>、<sup>わか</sup>昼<sup>わか</sup>間<sup>わか</sup>に<sup>わか</sup>自分<sup>わか</sup>が<sup>わか</sup>やり<sup>わか</sup>たい  
こと<sup>わか</sup>する<sup>わか</sup>ため<sup>わか</sup>など<sup>わか</sup>、<sup>わか</sup>色々<sup>わか</sup>な<sup>わか</sup>理由<sup>わか</sup>で<sup>わか</sup>定<sup>わか</sup>時<sup>わか</sup>制<sup>わか</sup>高校<sup>わか</sup>に<sup>わか</sup>き<sup>わか</sup>ます<sup>わか</sup>。<sup>わか</sup>そこで<sup>わか</sup>岩崎<sup>わか</sup>さ

んのような大人の方が来てくれるということは、ものすごく先生方  
にとってうれしいことなんですね。役割がすごくあるんです。

そういうことで、札幌東高校定時制では、岩崎さんが入ってから、  
毎年教頭先生が札幌遠友塾に必ず募集に来てくれるくらいなん  
です。そのように道内の夜間中学で学ぶ人が希望すれば、定時制  
高校では引き受けて下さいます。

また、遠友塾から一番行っているのは、有朋高校という通信制の  
学校です。こちらは毎日通わなくても、月に2回位日曜日にスクリ  
ーニングがありますから、それに通って、後は自宅自習で勉強する  
という学校もあります。

そのように有朋高校や夜間定時制を含めて、毎年遠友塾からは2  
～3名の方が進学しているのがこの4～5年の状態です。

#### （飯塚）

ちなみに、遠友塾の卒業生で、今年、東高校定時制を卒業さ  
れて、道都大学に入学された76歳の方もおります。

#### （会場から）

遠友塾を卒業していないよ。遠友塾で1年間学んで、定時制に  
入学してから、大学に入学したんでしょう。

#### （司会）

もうひとつ方、実際に経験された方がいます。お聞きください。

さつぽろえんゆうじゅくそつぎょうせい  
(札幌遠友塾 卒業生)

いわさき おな へいせい ねん えんゆうじゅく そつぎょう ご ゆう  
岩崎さんと同じ平成19年に、遠友塾を卒業しまして、その後、有  
ほうこうこう い そつぎょう おも  
朋高校に行きました。やはり卒業できるかなと思ったんですけど、  
わたし しごと たいへん せんせいがた  
私は仕事もしながらですから大変でしたけれども、先生方のアドバ  
イスもありまして何ん ねん そつぎょう  
とか4年で卒業できました。

しんばい がっこう い う  
心配していたよりも、学校に行つてスクーニングというのを受け  
るとりレポートを出すには楽です。

ちよつとテストがありますから、テストの時は仕事もしているの  
あさ じはん お べんきょう  
で朝4時半くらいに起きて勉強もしました。

なん らくだい ねん そつぎょう  
何とか落第もしないで4年で卒業できましたから、みなさんここ  
そつぎょう ゆうほうこうこう う い がっこう あ しんばい  
を卒業されたら、有朋高校なり受け入れる学校が有りますから心配  
しないで行かれるといいと思います。

こうこう たの ねんかん えんゆうじゅく べんきょう たの  
高校でも楽しい4年間でしたし、遠友塾での勉強もとても楽し  
ねんかん う  
く3年間受けることができました。

えんゆうじゅく はい なお おも とき  
また、遠友塾に入り直したいなと思っているくらいです。その時  
せんせいがた ねが  
は、先生方よろしく願いいたします。

しかいよこやま  
(司会横山)

しかい かんそう い  
司会なんですけど、ひとこと感想を言つていいですか。  
こじんてき はなし ねん まえ  
すごく個人的な話ですが、2年ちよつとくらい前かな、たまたま  
ちち たお いのち しつごしょう  
父が倒れて命はとりとめたんですけど失語症になったんです。その

とき わたし こうかい ちち い  
時、私 すごい後悔をしました。なぜかという、父がどうやって生  
きてきたかということ、ぜんぜんし ちち むくち はなし  
を、全然知らなかったんです。父も無口で話  
ができないんじゃないかというくらい、しゃべらない人だったので、  
じぶん かた  
自分のこといっさい語ったことがなかったです。

こうかい とき いえ せいり しょうわ  
そのことをすごく後悔していた時に、家を整理していたら、昭和4  
ねん う さい かんれき とき しょうわ お へいせい か  
年生まれで60歳の還暦に、その時は、ちょうど昭和が終わり平成に変  
じだい ふく ちち じぶんし か  
わる時代だったので、そういうことを含めて父が、自分史を書いて  
いたものが見つかったんです。げんこうようし か  
原稿用紙に書かれていたのですが、  
げつぐらい そうそふ じだい ふくしま ほっかいどう き ようす  
10ヶ月位かけて、曾祖父の時代に福島から北海道に来た様子を、  
なんしょう わ か  
何章かに分けて書いてありました。

わたし ほんとう すく  
私は、それがあって本当に救われました。

ちち い ほんとう し  
それがなかったら父がどうやって生きてきたのか本当に知らな  
わたし すく かん  
かったですね。私はうれしいというより救われたという感じだ  
です。

ちち ぶんしょう か のこ かぞく  
それで、父がその文章書いて、それが残っていたことで家族にと  
ちち いろいろ  
ってもよかったですけれども、たぶん、父にとっても色々なこと  
ふ かえ かくにん  
を、いままでのことを振り返って確認することができたと思います。  
ちち いったい じぶん い なお  
父にとってもう一回、自分の生きてきたことをとらえ直したいとい  
おも  
うこともあったんじゃないかな、と思っています。

こくご いっしょ えんゆうじゆく べんきょう か さぎょう  
いま国語と一緒に遠友塾で勉強していますが、書く作業ってす

ごく辛くて、たぶん、色々なことを思い出したり、苦しいことを思い出したり、泣きながら書いたという人もいましたけれど、何かそういうなかで、いままで自分が生きてきたことを確認できたり、許すことができたりするんじゃないかなと思うんですね。

私はそういう書く作業を終えた時に、一歩踏み出す、すごい大きな力になるんじゃないかなと思うんですね。

私は、本人にとってすごく苦しい作業だけど意味のある作業だと思っています。

それと同時に、みなさんがこうやって体験発表して下さって、それを共有できる、分かち合える、実際に体験発表しなくても、それを聞いて読むことで、自分にひきつけて考えることができ、そこから勇気をもらえるので、ぜひ、みなさんに、苦しい作業ではありますが、そのような文章を書いていただきたいと思います。

そのような文章は、伝える力があると思うし、ぜひ、自分が生きてきた証を書き綴ってほしいと、そんな感想を持ちました。

しかい  
(司会)

あとひとつ、ふたことお話したいという方いらっしゃいますか。  
なければ、感想質問などの語り合いをこれで閉めたいと思います。

## メッセージ

ほっかいどうぎかいぎいん ひろた まゆみ  
北海道議会議員 広田 まゆみ

ねんどだい かい  
2011年度第2回北海道自主夜間中学「生活体験発表会」のご案内ありがとうございます  
ざいます。ほんらい みなさま はなし べんきょう  
ざいます。本来なら、皆様とともに、お話を聞き、勉強させていただくべき  
ところですが、ざんねん じもとようむなど しゅつせき  
ところですが、残念ながら、地元用務等のため、どうしても出席することがで  
きません。お詫び申し上げますとともに、せいかい いの  
きません。お詫び申し上げますとともに、ご盛会をお祈り申し上げます。

まな  
学ぶことは、すべての人に保障されるべきことです。さまざまな事情から、  
まな きかい え かたがた たい と もど かつどう  
学ぶ機会が得られなかった方々に対しそれを取り戻そうとする皆様の活動に  
こころ けい い ひょう ほんじつ ひごろ くるう  
心から敬意を表します。本日の発表会において、みなさまの日頃のご苦労が  
少しでもいやされるとともに、あわせて、一人ひとりのみなさまの人生の素晴ら  
さが、今、学ぶ機会をうしな くる わ あ  
さが、今、学ぶ機会を失って苦しんでいるすべての人に分かち合われますこと  
きたい  
を期待します。

まっぴつ  
末筆になりますが、日頃からのみなさまのご努力に心から敬意を表しますと  
ともに、かいじょう あつ けんこう いの  
ともに、会場に集まれたみなさまのますますのご健康をお祈り申し上げまし  
てメッセージといたします。

## お祝いのメッセージ

さっぽろしぎかいぎいん まさとし  
札幌市議会議員 むねかた 雅俊

ほんじつ ぜんどう  
本日の全道自主夜間中学校「生活体験発表会」がご盛会に開催されますこと  
よろこ いわ  
にお慶びとお祝いを申し上げます。

自主夜間中学校の皆様とそれを支える皆様に敬意を表すとともに、本日、一同  
かい こうりゅう みの きねん  
に会し交流をされ、実り多い発表会になりますようご祈念を申し上げます。

私も皆様の環境づくりに微力ながら尽力していく所存であります。

本日は、ご案内をいただきましたが、公務が重なり残念ながら出席できません  
ことにお詫び申し上げます。

むす  
結びに、それぞれの会と皆様が益々のご発展をされますよう、重ねて、本日  
さんかい けんしょう たこう きねんいた いわ いた  
ご参会の皆様のご健勝とご多幸を祈念致し、お祝いのメッセージと致します。

2011年10月9日

## 交流会アンケートから

- 今回発表した受講生スタッフの皆様にごろ感謝の気持ちで一杯です。この席に出席できたことうれしく思いあらためて又日々がんばります。
- 札幌遠友塾お忙しいでしょうが、出来れば理科をのぞみたいです。
- 明治生れの祖母（私の育ての親）の姿と重なって体験発表を聞いていました。夜間中学でまなぶ人々にこれからも楽しい時間が来る事を祈ります。学びたい人々のお手伝いが少しでも出来る事があればお手伝いしたいです。
- 旭川の参加がないのが少々さびしいです。旭川の受講生の体験発表の感想が聞けたのは良かった。
- スタッフとして参加させて頂いておりましたが「勉強する」というより「学ぶ」事は何かを感じる日々です。共に学び、共に成長していけたらと、と思っています。
- 遠友塾が後押しできる事をこれからもたくさん見つけて進んで頂きたいです。
- 川村チエさん：前向きな姿勢に感動。学習に一步ふみ出した成果でしょうか。
- 高橋トコさん：横浜に仕事を求められたときの周囲の理解、それ以上に一步ふみだした勇気はすばらしい。
- 小川サヨ子さん：“平凡”ではない様々な体験、それがあからこそ若い学びと違って今の学びがますます意味あるものとなっているのでしよう。

いわふね 岩船トヨさん : きび じだい 厳しい時代でしたね。そのたいけん 体験の中から学ばれたこと、

そしてすばらしいゆうじん 友人の話、いんしょう のこ 印象に残りました。

- みな 皆さんのまえむ 前向きなしせい 姿勢(生き方)をささ 支えているのは何なのでしょう。きつと 回りの人々にあた 与えるえいきょう 影響は大きいことと思います。えんゆうじゆ 遠友塾がそれらをささえ 支える場でありつづ 続けることをきたい 期待しています。

生活体験交流会はきちよう きかい 貴重な機会だと思います。“つづけていくこと”にこんなん 困難をかかえている点“についても、ほりおこ 起しが必要かもしれませぬ。き 聞いてみたいです。

- 学びたいとかんが 考 えて持っているかたがた 方々はまえむ 前を向いてがんば 頑張っているな～とみなさま 皆様のあつ 熱いこころ 志ざしでかんだういた 感動致しました。すごい！！

- せっかく 鉏路、あきひかわ 旭川、はこだて 函館の方々があつ 集まったのだから、シンポジウムのよう なコーディネーターをたてて、いろいろもんだいてん 問題点やら、ていげん 提言やらを4校のひと 達で話すようなことがあつたらよ 良かったなあと思いました。

(コーディネーターがうまく話を引き出す必要があるでしょうが)

- 皆様の発表に感動しました。これからもがんば 頑張ってください。

- この日のおも 想いに

私は今日もかんじ 漢字を学びました。きょういく きょういく 教育は共育であり、がくしゅう がくしゅう 学習は楽習であること、だからがっこう がっこう 学校は楽校であり、ちゅうがっこう 中学校はちゅうがっこう 知友楽校なのだと、「こんばんは」は「こん 魂、はん 範、わ 和」なのね。ちえ 知恵のかみ 神フクロウは「ふくろう 不苦労」だといえるこうふく こう 幸福=口福を私はおお 多くの友とであ 出合い「そで 袖すりあ 合うもたしやう えん 他生の縁」でし 知ったの。

私は今日まで生きてきました。「学ぶことは誠実を胸に刻むこと」と心得ました。貧困・無知・戦争の事情は今度こそそのり越えられそうです。「人生は解くべき問題ではなく経験すべき現実」と知ったから。私は今ここにあります。

知識が欲しくて学びのサロンにきています。教育＝学校化は教育格差・学歴社会を思わせる。だから私は人間のつながりを求めて居場所を探すの。

「学び」は「学校教育」がすべてだとは思わないから。見せようとも、教えようともしないところで沢山の経験を手に入れたのよ。必要とする人が必要とすることを自主的に学ぶことに感謝して…ありがとう。

- ひとの前で発表することは、これ自体が体験だとおもいます。できるだけ、たくさんの方が発表できるほうが良いです。
- 貧困・無知・戦争→だから塾のパターンは話す方も聞く方も辛いのではありませんか。
- どの方の発表もすばらしかったです。ご苦労に頭が下がり、とても感動しました。元気と勇気をもらいました。参加して良かったと思います。涙無しには聞くことのできないりっぱな発表でした。私も皆様方と一緒に一所懸命学んでゆきたいと思います。
- 札幌遠友塾のDVDの音楽の音がおおき過ぎて井上代表のお話が聞きとりづらかったです。係りの皆様方おつかれ様でした。そしてありがとうございました。
- 皆さん元気ではつつとしていて、自信を持って発表している姿を見るに、

自分がやりたい事に専念して、日頃遠友塾を通して学んでいることの充実感が十分に伝わってきました。皆さん、今後もご健康に留意し、ますます勉強に励んで下さい。貴重な生活体験発表を話していただき、ありがとうございました。

○ 皆さんの体験発表を聞いて感動しました。皆さん素晴しかったです。いろいろ大変なご苦勞をされ年令を重ねられた後で改めて“学ぼう”という姿に感動し、日頃怠惰な生活をしている自分を反省しました。5月からスタッフに加えてもらいました。今後微力ながら自分のできることをやりたい、共に学びたいと改めて思いました。皆さん本当にありがとうございました。

○ 学ぶことのすばらしさ、人との出会いのすばらしさをみなさんの発表から改めて感じました。今日、ここに来て、みなさんのお話を聞いて良かったです。ありがとうございました。

○ 教室内を自由に行動して、色々な人と話せる場をもっと設けた方が、他の遠友塾のお話も聞けるので良いのではないかと思います。

○ 今日は色々苦勞したことを発表してくれた人達のことは本当に頭が下がります。これからもがんばってください。

○ 一つでも良いから学ぶ楽しさ、友を得る喜び、健康の大切さを気をつけながら、人生には喜怒哀楽がつきものと思います。それと上手にお付き合いしながら、これからも悔いのない人生をお過ごし下さい。

○ スタッフのみなさんへ：学習したい気持ちはあってもついていけない人の気持ちをくんで指導をお願いします。授業内容じゃなく気持ちのホローを…

むずか かしい 課題で申し訳ないです。(生意気な感じでご免なさい)

- どの方の発表もすばらしかったです。！！
- 一人、一人の発表に、それぞれの人生の重みおもが感じられ、大変感動たいへん致いたしました。

\* アンケート集計結果しゅうけいけっか (17名)

① 時期じき：よかった (17名)

② 時間配分じかんはいぶん：よかった (16名)

その他 ( 1名：内容と目的ないよう もくてきにもよりますが)

③ 発表会は何なんでしりましたか。

夜間中学での説明せつめい(9名)

案内文あんないぶん (4名)

知人ちじんから (1名)

その他た (2名：パンフレット1名)

ねんど だい かいほっかいどうじしゅやかんちゅうがく  
2011年度 第2回 北海道自主夜間 中学

せいかつたいけんはっぴょうかい きろくし  
「生活体験発表会」記録誌

---

---

はっこうび  
発行日 2011年11月25日

はっこうしゃ  
発行者 ぜんどうじしゅやかんちゅうがくこうりゅうかいじっこういいんかい  
全道自主夜間中学交流会実行委員会

れんらくさき  
連絡先

ほっかいどう やかんちゅうがく かい  
北海道に夜間中学をつくる会

<http://yakanchugaku.enyujuku.com/>

じ む きょく ちょう いずみ まさと  
事務局 長 泉 雅人

〒004-0004

さっぽろしあつべつくあつべつひがし じょう ちょうめ  
札幌市厚別区厚別 東 4 条 5 丁目 9-23

Tel&Fax 011-897-1426

---

---